曽
ノ５
3

ロ 13
15
3

集義和書巻第八

義論之一

一 心友問、論語の教は仁を主とし、大学の教は知を主とすること何ぞや。

答曰、論語は聖人いまして直におしへ給ふ故に仁を主としておしへ給ふ。仁は全徳なればなり。大学は聖人ましまさず、聖人没し給ひて後、聖世に出給ふまじき時を兼て書おき給へるものなれば、知を主とし給へり。知は徳の神明にして性の先見するものなれば、天下の惑をひらき人倫を明らかにする書なれば、知を主宰として、自反慎独の実体に至ては聖人いませし時同じ。学する人のため大学を入徳の門とし、論語を入徳の室とせり。

一 心友問、貴老易と孝経とを以ておしへ給ふ。易は玄妙深遠広大高明なる書なり。孝経は童子の始とするやうにいふ書の

太田文庫

根よりしらざるゆゑかくいひなすにやと問ければ　答て云言近
く旨遠きものハ善言なりと云孝経ハなぞらへあり易ハ
天地よりして道徳を發明し給ふ故に其語勢幽遠なり
孝経ハ人倫よりして道徳を教給ふ故に其語勢親切なり
宜とこれによく易をみる者ハ近く身に取て親切に受
用し幽遠の事とならずよく孝経を学ぶものハ詞の
近きによりて幽深玄遠の旨をしらざれバ中和をいた
して天地位し万物育するの極功神聖の能事にて
ある事をしるべし孝経ハ句によりて心をとゞむべし易ハ
むねとむつかしき所をもおもふべし大抵ハ見様あり易
ハ分論大意ありて句にて窮まれバ道理あり
畢竟易をバ近く見孝経をバ高く見て習によれバいふべし

あるひハ易ハ天道なれバ近く人道に合て合し孝経
道なれバ遠く天道に合て合し程子云易因爻象論
變化因變化論神因神論人因人論徳行大體通
論易道而終於黙而成之不言而信存乎徳行なれバ
に易ハ畢竟人の徳行を成によれるなれバ人の徳行
ハ孝より大なるハなかるべし

一　心友問孝之心法　答曰孝ハ天地未分の前よりなすの大虚
の神道なれバ天地人万物みな孝よりうまれ生ずるの春夏秋
冬ハ風雷雨露孝にあらざるハなし仁義礼智ハ孝の
條理なれバ五典十義ハ孝の時なれバ神理の含蓄なれバ
しるべし孝ハ言語をもつて名付べからずされバ象を
取てハ孝といふ孝の字ハ老子の二字を合せて作りたる文字

の傍偏とならん時にハ畫をもふくミしかり天地ハいつれも
きざるか大虚の時にハ理を君とし氣を子とし天地となりて開
けてハ天を君とし地を子とし乾坤を君とし六子を臣と
次日ハ君とし月を子とし易の字日月を合て作れり
日月君子其義一なるを易と孝經とハみな道理
也山を君とし川を子とし中国を君とし東夷南蛮西
戎北狄を子とし君を君とし臣を子とし夫を君とし婦を
子とし徳性の感通よりいへバ仁ハ君なり愛ハ子なり此
理を以て万事万物にわたりてみれバ孝の理ならずといふ事
なし此神理の我心に有もの夫を取て受用と
するハ愛敬なり上より目をかけてハ君臣幼子を携
多敬ハ仰ミして愛の象也下より見あぐるハ子の君を戴

なる体にて敬の象なり其親を愛するの心ある
天下にあくむ事のなし其親を敬するの心ある
心ハ天下にあなどり慢事のなし是を愛敬
親にはふる一心のうへに盡して天地同根万物一体の
性命なれバ一日も私欲にて天理存するの時ハ
其天をしらぬなれバ外もなく其小をしるなり内なし継
にいたく仁といふ也義ハ孝の勇なり禮ハ孝の品
節なり智ハ孝の神明也信ハ孝の實也赤子孩
提の時孝の理をもって親を愛するのおこれるの心
纔にいでてよりもよく其長ずるに及て兄
に順ひ親ハ妻子の敬生ずる花の清香のおとし此愛
敬の徳親にあつめおもへ故にいふの名をあら

なれハ親に孝の家道ハ孝ハ云母にハへくして愛あら
まし敬なれハ父につかへてハ愛敬なくしてあらんまじきなり
なれハ子たるものハ愛事を用ひ敬内に備れハ是を父の
慈みと云父の慈しミ子の孝と相合て父子有親と云孝
徳君に仕へてハ敬を外にして愛内なる臣にそなへる
愛敬なくしハ伏して威厳備へて仁政行ふる君の仁臣
の忠と相合て君臣有義といふハ妻にあひてハ愛みらひ
て敬なれハ妻にあひてハ敬と相用ひて愛なれハ夫の和
義と妻の貞順と合て夫婦有別といふハ心のまゝに
此するなよおしハ此心の妙まくし自然とかく変化するな
き其中とのりしたる未浅深乃天則そなへて兄にハ
切なると父につかふるごとし弟とめくむこと子を愛

するがごとし兄の恵と弟の悌と相合て長幼有序といふ前
友ハ真実無妄乃天道を父母と立て兄弟なるものハ実なれ
ともハ朋友にあらざれ兄と列て朋友有信といふなり一人
の人ありて子に逢てハ父とよぶも父においてハ子と名
君の前にハ臣と名付家臣も又君と称する一のもの
畢竟一人の人なれとも逢ふるに付て名かはるのミ本
心の一徳なるものを經とすること神通変化して其義を極
むるなり

一　学士あり問て云顔子のおしくおやすからぬ思ひせざ
る事ハ大賢の心地にしてハなにしよりしなきもの何ぞ
其用の道を作られぬや　答曰まことに甲子にしも〳〵列
事ならずにしてもせて事を壊せし学者の及ばぬ所なり

亜聖の地位に至るハ事さて様にもなしいかなる愚なるものなりとも吾人
と云ふとも一たび前に心得ちがひして過ちハ大に悔さとり
て其非を知りたる以後ハ二度せざる事なりと自己今日受
用にもちひて過ち二度せざるの工夫ハむつかしき人に聞かぬ
心なくしては道にかなはず過ちとのみ心ありて過を遂と
悪と思ふ思ひ出でたる心上に一念道をもちひねらると過
しれ既に捨たる道ハおのれと心思ひなくして気をとられ速にかち
かつことなくハ大なる爐炭の中へ一点の雪を投じたるが
ごとし炭の上すでに投じてはれ火気を以て消しさ
ることかなはざる事を道と知りおりて念慮をもって
不善ハ過を悔てひきかへさば二度なさず悪に近し
吾人ハ生れつき気質を変化せば其平人の位をぬきたる間ハ

其心地気位ほとんどなき間思雑慮ハ昼夜に幾度と
きりなき事なりさればハ百度萌ともすぐに一念独
知の上にて払ひさりて速にかぎりなく後悔
くを滞る事なしと受用しては生涯を遠ざくるにて
復卦の上も道の色なし　問聖学の心法此外にあり
やいかなる如此間断なく受用せハ終に君子の地位に至
る事になれりや　答云ふ事じハ尊徳性の工夫也さりとは
いふもの道のやふに居て惑をはれぬまでの学問なく
しては今日の常人の位をぬきたるじありてかく
右の工夫をもちまして後にあらハ退屈せらず惑をも
辨つく真智照りまして今日の凡位をぬきてぬかん
とならば昼夜にいかにもつかる間思雑慮の妄ハ一度

よ十を二十とも亡ぶれバ色々の妄ハみな昧きなるに
あけゆく事なれバ太陽東より出れバ夜中に出たり
きつね狐狸蚊虫のたぐひむかすて皆何方へ行やらむ
なれバおのづから夜に歩士あつかひに歩行ハ者まゝく
其風の卑俗なるを悟りて神妙にせんとのミ思ひて
若黨にしてはやせバ舊習出やくして馬に乗ば
乃身上に成ござなの歩行の者の風俗ハ失ものなれ
ども此なくしていかむ我身の人かどいらむと罰せらる
一切の地位をさる時に今まうひきをとゞめまじく
心法の受用間隙なけむとせば随くに其位我がみを
て終に徳に入君子の地位によるべきものなり是此気
質変化といふなり。同じく怒を遷さぬといふ事も

者にいかなる事も其気をしらのものにうつさぬを云
人毎一人にいかるゝ時は終日其気とぎれず顔子ハいか
るハ其不義其悪逆を疾く人にいかるゆへ
少しも其怒の気うつらず鑑の美を照し悪を照す
ごとく去て跡なしまことに何ぞや　答て其いかるを
にくハ何もしらず其分にてハ今日の受用と成がた
きくなれバ聖賢の喩へも是なれバ今日吾人にて何か
てそ聖人の怒に同じかるべきありむかし物語
をきゝても長田が義朝をたばかり鎌田が殺し
たるを見るにハ誰もにくき心生じいかり発して
其時は居ましかバ一刀切ろとおもふなり又今の時
人をも他の不義無道なるものにいかるハいかるべく

心生しねさるまじとも此怒を性命の正より出
つまく私欲のましまりなりに為よ為も氣の廣大
剛強よならるかともえく相火のたのみきく
此心常によるも清明なるを是一ハ名秋ふくこるてい
へと聖人の心地よ近くゆりかたる是と怒よるれられ
よと云聖人を今日の交接といへとも私欲ましくらるく
万事これ性命の上より発する故よ如此し吾人ハ他人の
上又ハ如此く明かなるまとをも身の交接もなかまといて
へ私欲ましまうなるよ其怒れ所ハ道理すてを相火
たかよりて此心ふれ行りらく怒れよ氣いそきて
これ言語つるくとおやまり平復の時後悔れ仁しるを
怒よこれろといへ文王一たびいかりて天下の民安し聖

人ハいかり給ふことはしとしいかり給へども天理なり人欲なし善
人のこしハまた悪人退き雷雨の動きとして悪人をそれて其道
心の肝を清くなり怒のこともあらん悲哀とえとも吾人よお
ゐて聖人よ近きにてあるを百歳子孫昔の事と漢大傅と
なる物の哀なれのいさゝて又ハ道理の至極を聞ては淡さたう
ぶして此しへとくに一件の心を真實悃怛の情よとこれらといへ
なる心の霊覚にいくかて操存は平人の心ハ入りて常なれ
悪念忘思を去して善よ近きとあり私欲の実りなき故

一学友問格物致知の心法ハ古昔の経すともなく此聖の語よ
もれて給らん子思ゆく発はし給ふまさ　答曰易の六
十四卦其位よ應して格致の心法あれと云もと此易簡明
白よいつまへと通へる様よ初くかるを出し給ひしをハ竟の

彛に傳へ給ふ執中乃心法也孔子の顔子に傳へ給ふ非礼視聴言動することを是なり曾子に一貫と忠恕とやらしを給ふときく子思又孔曾の傳の心を述て中庸一章とも給ふ時格物致知とぞ　同視聴言動をも云て肝要乃思を残し給ふなれは　巻四時と云て土用をもれ元亨利貞と云て誠をいふ仁義礼智と云て信をのれ四ツに應しくしるまじきものを、いふれして其内より視聴言動の四のその思を主とせよと云事に其上顔子ものは思の格は不用なし、おり中人以下の学は善を思ひ善を行て悪を思ひ悪をきなれはかふろかりて心思躬行ともに善なくして悪なれを善人と云んは俗を知らぬ物なり是よて信義大聖神によらしてし顔子は既に大人なり悪念乃

無霊に往来せざることなれは善念をも亦往来させ何の思の格はなくとも三月仁に違はぬ語わが春夏秋冬みな三月にて相易るものなり三月とは一年中のすなわり年月日時とぞて終に仁に背くことなし絶ゆることなく三月違はれてふものはなすされ皆去間善念のたえしあらぬおほえり物の事をなくすることをなし然不動に志く感して通ずる聖人乃心地なれは一しかしさうとあるものをもとして一片の浮雲の大虚を過るがおもしろきことは平人なのてはくは挙へとほしくて善なるとゝも顔子に物ひては自然の作にあらさるものに其善念を須臾もとてめば遠ざかしく復するかたる　同心上なり如此なるは視聴言動なる末の事を去るにはいはり

顔子高明廣遠なる事にをいてハ聖人に同し今さらに吉
凶にかゝハらん乎人より聖人にならんとの心なと務むへき急
なる事の事なれハ心をつくし残すところなくおり仁ハ天地万
物をもつて一体なるを残すところなしといふ事よりて
末の事は告けて顔子治国の論にをいて輅冕等を
以て言ふにはかり知へし　同先生の論ハ陽明子の
傳に似たるも朱子王子格致にをいてハ黒白のちかひあ
れハにて　昔愚ハ朱子をもとし陽明をすてんとす古の
聖人に取て見れハ何れから道統の傳のすいたる朱王
ともに同し其言ハ時によりて発せらるへし　其真にをいて
ハ符節を合せるかことし又朱王まてを各別におもへハ朱子
を時の弊をたゝさんためにて理を窮め惑を辨するに達

自反慎獨なるよりよからしと王子ハ時の弊に[illegible]
反慎獨の功に達し窮理の学なきによりて頑愚拙自反慎獨
の功の内に向く受用と成すハ陽明の良智の発起に取惑
を辨するの事を朱子窮理の学にしも達するも朱王の世学
者のすくひハ異なる地を易ハ同しかるも窮理とて事
々物々の理を空におひてそ人のとかくにひかるゝにたゝ学者ハ
心のすくなきハあくまての事物によりて其理を窮めさするりさ
是ハ是ハ初学の時の事なり大意心に知得させしめんハい
またに不辨不知の事千万の事物を未来にいたるとを
ますゝにとりし異学の一代心を盡して悟しいふものを
聖学なりとも思ハ力をさいはれ心をもとらせすして終
いふへき傳しなり

一学友問云同しく聖賢にて候也ハ何ぞしも孝行なりしさ
なりしハおのおのしかれ大舜文王曽子閔子ハ数人にしれ孝子
の数に入候りといへとて　答云歳寒して松柏の凋におく
るとハ紙よりも候ハね平生無事なる時にハ聖賢ハ善
行しれありしく見ゆるも様なし聖賢の道を行ひ給
ふ人の無病の時も同し理にて常なるを其時ハ見え
ぬものなりけれハつのかハりて明者ハ月ヨリ黒白なれ
るとくるなりて父母ありて大不孝なる大悪人まてあるに依
ら緑ハ夏山乃緑ハ夏木冬木なれハつのかハらぬ月にま
た青山とても同しかりけれ大難にあひ大変に逢てよ
れ人と君子のものもの大にあらハしあり孝子ハ数にいる
聖賢ハ常にも平の境界常なしねものあらハし給

て候り同人の行ハ孝にも大なる儀しと見ゆるもの
聖賢にも地しらず候て聖賢の学ハ何ぞ人候かハ答て曰
そもそもハ氣質ハ善にそ候りいさ大道を見きして入徳の学ハ
ならさまに氣質に本氣の精を多くうまて生まれ
ましく本氣ハ神ハ仁なりの應の慈孝無切ので倍に心を
ひとのゆく孝なりなるものなら其方の氣質ありあつき徒
こ此世の靈明らしときまハ孝行なりほてよとく挙用ひて国家
の政道なのよりハ不足するり多く候り此人賢聖ハ師に逢て
心法を受用せてなるものハ父常のならいハ各別入徳の
功にて多く他の不足なるゆゑとまれにそ多く候り曽子の師
さえならむし曽子父のために凡さくさきもとりわけま
まつ凡の根をもて曽哲怒て大杖をなをもて曽子と

つ曾子にいたく地に伏たるを狂者なり出して家に入ねといひて
諫くまさく曾子よみがへりて父の心をなぐさめんと思ひ給ひしにや
身を起して曾皙の前に跪きて今此ほど不敬ハ罪あり是を人力
を用ひて教給ふといひて我方に帰り琴を弾じ詩を詠じ
て父に痛なきを知らしめたり毎人涙を流し感じ
何又曾子門人悦び夫子に告る孔子聞て曰く不道の学者なり詞
ら汝門に入ることなかれと侍者に語らしむ曾子其故を問孔子曰我聞昔
を教給ふ大舜を師と為と云ことを舜ハ父の小杖を持しいは時
ハうけて退き給ふ大杖を持て追時ハ其所あるまじく逃付給
ひ父を走て人を教立て罪なからしめしと也今曾子の尊卑に
その身を亡ぼし父を殺せし若其ましきに死なんは曾皙ハ孝子を
殺せし罪をまぬがれ何そ大杖をみて早く退かざるや忠を用ざる
の甚しきなりと門人曾子に告ぬれバ曾子謝す
是曾子ハ生得孝行なりといへども氣質魯鈍朴訥なる
ゆへあり是を聖師について大学の心法を受用せしめハ愚
なれども明らかに柔なれども剛くならし神化変通して
大賢の位にいたり給へハ天下の父子の道にちかひて何事も聖人にちかふ事なし

一 或問孝経之大綱　答曰孝経の心法ハ正心脩身天命の分を
安じて人を慶不の位に随て道を行なひハ天の人なれバ是又
その物ありとし則ちハ是天子の富貴に居をのつしき天子之則
にあり公侯伯子男とのく則あり卿大夫士其々の道あり農工
商其務あり其行ふ所の大小ハ各別なりといへども孝の心法ハ
かはりなし大河の水のながれて所に随て象をかへるごとく
方なく田地の為り井をつくりハ其井に従ふに流る

ことくしむことに就て晝夜われそのもの外に温習て内明か
なる事の性ハ外より来らす君子乃象なる事小人乃心法ハ外を
照らして内昏し人の非をかそへて己か不善を改めす燈
臺乃ことし。ちかきか故に天下乃人みな内明に行てこれ
不足をしりて温行て人乃化をとれは天下七人みな
我にまさる所あることを知ハ孝の象なれハ損してまさく天下
平なるへし孔子乃時とてに異端乃地に家くさき崩を
孔門の学者ハ皆人ゝの本産あり多くハ日本の地士と云おも
ふくゝく古風乃田地の家督あり学ハ正心修身の志また
まなふともなからむてつねに家人を国用のたしめある
役儀なく本産なくして道徳なく人ま生しおなし
ものハなりたるを堯舜三王乃盛なるにしかるへからむ

まして何ともなく五等の人備て、かゝる事の様なりハなき勢あり
孔子の時を得給はすして天下を周流し給ふも古
よなき風なるを聖人にして時の変を行ひ給ふもの也
後世の人ものは似せて二三変する時ハ五等の人
備乃外なり道学をとりて家を建て産業をも辞
するの志出来る勢なり孔子ハ方ゝめくり小官をもふや
せられしそ役儀をつとめ給ひき孟子は然く、ふそや
職をおかめられて方ゝの地志あり官禄なく産
業なし徳ある時ハあまたなるに也しと孟子ハ大賢
なれ孔子に継立て天運の変を行ひ給ふへくなまこと
其身においていまたにかなし後世ニ到て孟子
の徳なき人孟子乃風ありなしなら時ハまことしく道学

と深く産業をおろそかにせしむ其人私欲なきを
よろしく道を行ふとも五等の人倫を離れて道者と
ふとのおきる時はいかで五等の人を道を離れて家
わり然るに道学へまよふ物を成て天下國家の用なし
なるゝ其後道者佛者となく人倫の外に道を説て
役せしむる者多く争ひをおこすは是なり孔子此
萠を見給ひし故に五等の孝を発明し給ふなり
万歳道学の鑑也此鑑に違ふ人は堯舜の徳なりと
さうする明らかし同五等は数をなくなる事なく候
も古よりも五等をいふなくは用達をなしと紀せと
也と此りは是にある　曰大綱は五等なりと其一等
くに頼む多し天子をいふ口は一人のことにて候

日本にて今にて公は又大樹一人也諸侯一等とは是を公候
子男の五品あり外に又附庸の國あり日本にもく名
をも違ひて之れに有るは四五十万石已上は公候にて
く三十万石のかし上下は伯のごとく十五万石の上下は
子男のごとく十万石以下は附庸のごとし是諸侯一等
内の分なり御大夫一等とは其徳行役儀の道理同
しからざるに大小高下をしるべく一等とはいへり其内にて
分けていへば天子の公卿大夫は公卿を公候にあたる
大夫は伯にあたるなり元士は子男にあたる諸侯の御
大夫とても小身なれども人の上にして君の命を執
る國政にあづかる天子の老諸侯の老たる大臣
なる老臣たる者は行事にいかにもなるべし

まづくにと諸侯ハ其国に君としてゝ役儀なければ人君の
やうなる臣なれども天子と客の礼をもちて待のゆ
え今日本にてハ諸大名の参府して登城をして老中を
御使にてまくにとてありさるゝ同前なる日本ニ
代のむかしの上代と中世ゝの時勢のかはりめしを考へ
られて此礼を行はるゝ事也天下統一の後の治め
かれも聖人の掟はかくしてもたゞ此事は長く今をも
さだめのかはる士一等とハ其内にておいて相違して
以て徳行のよろしきを取りて番頭并一人立の歴々
と上士と云也物頭與頭組頭まで一を千石以上の
人ハ中士のうちなるべし千石以下の平士ハ下士なる也所
司代ハ武官なれば中夏の士師なれ代官ハ農に兵あるを

しむるしハ上士の役儀なる也日本の今ハ征夷
ともがらして居るは下士の役となるを或ハ庶人の官にあ
ぶるく役々を成ぬ江戸大坂の町奉行ハ中士の位にして
威勢ハ今の上士よりも大りさくなれば国々の町奉
行ハ大かた下士より出ぬ中士ハ行と兼ねるもありおゝ
い物奉行ハ知行ハ下士よりも出なれどもよれたるをも
えらハ庶人の官なりわかるのなくむもあるも中小姓と云ま
大身の子も小身の子もあるハ下士の内なれ歩士ま
庶人の官にあるなく物よくく医者なれど
町よれるなれあるしてハ庶人の官にあるなくひとしきなる
また医者ハ庶人ハ内工商のなぐひなる也禰宜など
庶人の官なりわるなくもなれ又神職は高官なり天

文道楽道医業なとハ代々其家ありてなれとも
心ぼ用ひて云しきるはなり志ありとも其家を継
く人のなきを悔むくハむなしとせすむしろ人にもあ
其道に得ることなかれハ其家ハ教ふるとわり无
道学なとハもしくハ史官物よりの外にハそも若し
は其家といふものなかれ理なり其他ハ五等
の人倫のあまねく学ふへき人の業にあるへく受用するの
事ある人幼年にハ学ひ壮年に行ひ老て教ゆる
古今の常なり譲道老とありて親ハ子の
師となりて其間にて人の内をもって上に至る
学小学をつとむを命しあるともの
ことしとく学問する人をも教る家としても

道理なり士とハ其身よく徳行の
しハ上下通用の位にて上ハ天子諸侯卿大夫の所に蔵下ハ
農工商と教へ治るものにて秀たるハ諸侯公卿となり
又其まで廃人もちなす才徳ありて隠居して廃人と
同しく居を処士として大道を任して志大なるものハ
士なり公卿諸侯の本地なり故に賢なるハ公卿諸侯
もてなして士を敬し尊ね徳と年と位との三を天下
の達尊といふ朝廷にて上下の礼のあるまてハ位
を尊ひ常の交にハ年を尊ひ世をおさむる人は長を
の道にかなふハ徳を尊ふ公侯も士の賢をうやまひ
ひ士ハ公侯の位をうやまひたるにハ相敬するの義なり
志同しく心を友とせる時ハ双方の尊卑相忘るる義と

あり道を志さゞる人ハ其錢金地を忘く一旦のくらゐ色に
富貴に奢て士を慢り徒もハ才徳あるものハ隠れ
て不出中人以下の志ハいやしからずわ心のら下輩と成
く天下にすくれし士なきゆへそのすゑ相庶人一等しと云まて
農の外なく工商ハ農をたすけるものなり工とハ工匠
をいふ鍛冶白ぬりや塗師屋小細工師なと
何によらず職をする者を云商ハあきんど也居なから
あきなひするをも云てありとそ此の物をかへ
事かへもせず不作なくて金銀をとりて世を渡る也
いはゞ商ハ是れ人の物ハ農より出農ハ秀たる也
たゞ其人々の意をとくまとへて物の談合をし指嚮を
うけし事ハ事調ひあはれ其人の農事とハ寄合く所也

惣ハ裁判のため是に擇ひのきてまつその士の動する本
至あつて後又秀たるものに惣の士の談合しきさせ
へきまて諸侯も兼ね又諸侯の内にて尤秀たるを其
其徳四方へもしたふものくべて不及所ハ此人に有道理なれバ
に寄合てつかさどし天子とあふきたてまつるものなり然七
の中にて士と云物ハ甚大にして云その次ハ農つぎに工商
と如斯ハ天下の万事備て天地の五行に配して五倫
五等の本となるなり
一 学友同孝を以て天下を治しめし玉ふハ孟宗が至孝
なりとて天子となしも堯舜の御代なるなり 曰孟
宗は此の数子ハ多く天質の義なるといふ性命が学に
委しからぬ事を知ぬハ其親に事ふるにも又情欲の交

毋也靈中よ牽と水あハ性命は父母よつゞくの心よあら
ぬ舜ハとしめ給ひし後性命乃父母よ事へ後孝と
とりて天下を治め給ふ〳〵の心を盡し性命の
なる時語にハ父母の性命よ事ふ教を得給ひし愛
敬盡於事親而德教加於百姓刑於四海といへるの此
如此なれバ天下皆正人となり天下正人となる時ハ天下の人
の悦心を得て其父母よつゞく者すなハち先祖天地大虚まで
よ其悦心とゞきぬ此時に至て天地乃氣和て和氣の
和あり鳳凰麒麟も此大和乃氣中に生じ神龍靈亀
も海中よ生じ風雨民の願ひよ應じ五穀大よみのり
草木生長よく留滞なし鳥獣魚虫みな其生を遂山
君の魑魅魍魎皆吉神よ化し蛇蝎ミな龍よ隨ひ

復深山よ遁さるくる虫也ハ甘るしてら天よおそる天下の
沉滞魍魎一時よ消て流ずし悪鬼邪氣よるべきなるけ
ハあとくもて残なし天災地妖もん争ふよ和すし人為の禍
乱何よよりてれあらんや外よ邪氣のなくれバ内よ七
情の相勝なし疫病いかくよりおらんや大舜の孝ぞ
天下を和りのる至德の化如此し中國の民乃其風を慕
ハつかりをこうじん東夷西戎南蛮北狄の耳もきこえ
通路りも國にまでも此時よ至て毛事となのしなる德を
いふよりとして堯舜父子の並なるへらぬ如此の至德
ハ孝を以てせらして何とをりてかせん堯舜の道の豊よ
なるへし明辨さんして比の通汲異端の諸家ハ大鵬乃
側の燀と鷦鷯のあらし月と同して語るにあら孝經よ

四徳の教あり天に四時のあるがごとし第一徳は條理也第二
徳は極功也春夏の道に配す第三徳は反覆なり心法を
発明しあるは第四徳は変を統て秋冬の義に配る
一気同体の国なくは誰とくと天下を取ては王となるすな
はち日本にてはかく天子の御譲一統にて天下を取人も臣
と稱し将軍にして天下を知すといへども臣なり然
ることもや云中夏も大地の中国にて四海の中にあり
南に六の国あり西に七の国あり北に八の国あり東に九の
国あり是を四海といふ南を蛮と云虫のごとくなれば西を
戎と云いぬのごとくなれば北を狄と云鳥のごとくなれば
東を夷と云人のごとくなれば也是を四海の内にて多く是を九夷
の内にして朝鮮琉球日本とすなり又是三国の内にても又日

本はすぐれたりされば中夏の外四海の内にては日本にをよ
ぶ国なし是天照皇神武帝の御徳によりて大荒の時日本
の地主の人は禽獣に近しといへども天照皇の神聖の徳を以
て此国の人の霊質によりて教をなし給ひてより始て人道
明らかなり天照皇は地主に始りしよりこのかた神武帝其御子孫
行く天統とつぎまへり民乗國と云事なし王孫のたえし人にかはりて国を
国土の姓に異なるの類なれば一度たへ人としかねまじ
し天統とつかれ地生にもとしれ此人に天下をとりてぞ帝王
の號を得事不叶三種の神器を身にそへ奉りて天津日
つぎ給はん事は天照皇の恐多く且天威のゆるされぬ事なり
日本のならはしかくのごとくあるべし他の国にかはれる所なれ
ば日本にては禅譲の理也同じくのごとく此人ある帝王は天下

何として武家にハへりてかくや云謙徳を失ひ給ひし
ことなれば天下の権威をうばひ給へるなればなり、むかしは日本国中
一国ごとにおのおの今の様なる国郡の大名なかりし、其の都より
代官として受領をつかはし給ふ、国々は農兵也、其頃王徳を
うけし国々に私なる者出来て王命を用ひざれば征伐
ありつかはされし人則其国を治め子孫に至るまで国主となる
そのまゝ西ここに歴々の大名となる者を官位なきものハ人を
称し官位卑きものハ地下と云ひて賤しめられけるに其
其心に王城をなつかしく思ひしめり然るに王臣たる
ある者頻りに其折節武臣の大家棟梁を敢めてつかまつ
斯くて主君として士農礼儀有事なれバ是王
者の武臣に威をとらじ給ひし根本なりとし武家

となれバ然る事也むかしはなき事也是を奢とはいふ
如此なるなり　向武家の天下と成て凡其のかず五百餘
年の間に天道命を背き給ふ事六七度なり代々のためし如
まことに何ぞや云ふも是を謙徳を失ひ給ひし故也なん
是ゆゑ代々の弥々傍輩なる事近しまゝ士の礼儀
正しく富貴年々よりかいり奢つて長じゆきけるハ将軍
の士まで今し乃公家の如く国々の士は地下よりもなを
まさりたる名を我家来の人々をも与る家中の法式は頭
のあづかりて其様なるを以て是を行ふの事也将軍家の諸士
は御威光あるを不礼をゆるくしき眉目と思ひてつとむ
みなをさるべきなれどそれより天道はみなくはなかくなりけれハ
かけたる給ひにうつりてハ諸士の心さしとする時を得て民

なりんとハいふものゝなくなりし前車のくつがへるハいましめ
知者なれバなり向今時公家ハ其身なれ官位高く今毎
礼とおしなへてひろしの名残ありけれバ給られ其那を
さのみらぶるゝなくとまるしまいもや云はてもむかしを
奢つらあらんく権威を失ひ給へりといへども其時
の事かはり今ハ給もなりぬく持ける公家なく此らしまじ
ハざとをしてなかんずく以今ハ所で人ゆゑにより給ひて
公家ハ絶給ふへしむかし権威ありし時すら謙つて給ふが
よし今ハなしもそれねハよくは武家よりも隨ふる歟
なきふり禮儀なくハ同時なく公家の天下よ世の事
と可成うる中く世へ今ましくハ世々よりいはくへ公
まてきやうにくハ昔ハ武家より御氣をも育へき

事なるなり今ハ何の御用心もなけれ御事也是ともして
いなく位を位よ立てくる歟しかるに日本の為なる又将
軍家御冥加の為の事也同日本の国の為よハ如何なる
道理ぞや御冥加の儀ハもとより云を待あらざる日
本と云君子国と伝へ其ハ唐人のまにまに日本
ハ礼楽の道正しく風流なる国ハ東西南北よりき
事也それハ禁中をもつてれしそれ以清盛頼朝
よりこのかた武人大君と成て武勇のつよきハ天下
をとりて武ハ野人より追々狭き者よ成りし武家を
見ざるつく修りせ決算よ上らふよなりける
生しやうらふなることかくのごときまじきこと武勇
の達者ハれといふ大方ハ心をもつて事なきて其ハ相応之

ことあれば野人はよく天下を取まうけものゝあまた國主と成
田夫城をとる事いくらといふ事なし公家なくて幾度もか
はりけれど二三百年の内外ハ天竺南蛮までもしられねバ
学びたる職絶てし禁中よりしまれは人ぞ天下治く
慶長の比よりかはりけれど将軍家参内をこまかに諸大名皆
たがひにかはりなく東帯衣冠の禮儀を正しく務ての
則ある事は御遊の傳奏の仕りの風を耳く
則太平のたのしびをなせり彼といふも共に
身持切なるみだりなるものゝえびをなす此無道なる
八國天下の乱れ事をとりて野人かならず
ぞも天下統ずべしの人なり故に必古禮をたてる古
楽ともてむ禁中をおもくし君臣の義を天下に

教ゆるは天下の人民を見て威を力とせり紀人をほ
の主節とし此くの如くあるが故奉て主君となりし
かしこにおもむるはまことに道なる君なれ我おいてもまた國
郡を領して其ずべし忠誠ならぬ者がせむやむしろ職心
あるべし者をなむかならず普代の恩ひ
をうけたる家城をもちて世の太平を守る者なり禁中
をうけやすらでいかなく此德あらんやとて日本
国のたからなり今川良俊云文道と云ふでも
武道終よろしけれど此良俊ハ武家の世にありて
いくさの文武二道の人也世の兵乱ハ人の病氣のごとし
邪氣甚しき時ハ其邪をせめされハ藥なくて奇
邪氣さりて其跡虚しき時ハ人參白朮等の靈

藥なくてハ叶ひがたし戦国にハ武勇をもつて
国を取といへども其後敵なくなり国虚して戦国をつぐ
のちハ今日の養生をうけたまハれ久しかるべし敵去て後の
養生ハ文武の道也病後の人参のごとし病邪といへ共
人参を主として攻撃藥を用ゆるごとく戦国といへ共
大将ハ仁義の徳なくて不叶事也太田道灌ハ其初めより
武者にして馬をとり剱をとつて後もならび無他事有時
鷹狩に出て鳥よふらん為に民の家に立寄て簑を
かりたまふ其夫ハ野にいでて妻のミありて山吹の枝を
川折来て御前にさし出してことばもなくて入
ぬ道灌此の家に立入てみのをかりけるに其夜
人々に物語しけるに時今日の事を語るに其

中に京の客歌道よくしれるものありていふハ其女が
心ある者の落ぶれたる者なるべし其夫の事をきゝて出てく
内になかりしを賤の女として大守に言葉もなかりし
恭しむる恐あると思ひて山吹の枝をとりて
御ハしんぜたまふべし古哥に七重八重花ハさけ
ども山吹のみのひとつだになきぞかなしき其時道灌女
心ありける事を知らずして驚きふかく恥しき
事也国郡の上に居ながら賤女ほどもなかりしと
より士ハ文武二道をしらずして云もなく我は武将たるよ
さらねばならざる事なりとて上よりてしらず学
問を遊はしてよりてその武将にハまれなる文筆
の達者となり詩歌ハ云に及ばず經傳をよく学びし

其学問の事ハ世にしらぬ人多し。問、如何なれバ王者を天子
のかハらせ給ハずしとハ如何なる道理侍るなりや。答て日本
乃主なれバなりかハりぬへき事あらされハ三代をかさね給ふ孫
て天下ハたとへ行き天の廢る事なく不易なりと云り。説也其
王者ハ天神乃御子孫にして地生にあらねバなり。此日本
にをゐて廣大の功徳をうしなひ給ハバ天下の權勢
をハなれ給ひてやうやうにして上にあらせ給ハバ
まそと日本の主なくとりまもる道理なく武家も
たとひ天威のゆるし有とも自ら王と成ことハあるべ
き事也。此ゆへに攝政する心なく天下を知る心易き
事や。何ぞ公家分別の人なく王と成ることなし。又此方
よりかへし奉らせてもまつる事かなハず。此をもって奉る

後醍醐の帝の時まで公家ハ日本の人情時變をしらず成
給ひて此ゆへ天下を失ひ給へり。今ハ公家くらきゆへ
より給ふとも治めがたく乱逆
出来てなかなかむつかしき事ゆへに武家の人へ帝位よ
上り給ひしより王の天下ハとかく公家ハ無分別な
るゆへ、然るに一つの道あり將軍家に賢君出でゝ
しまして三十年を用意ありて家職をさだめ天下の
ようくまで末代までの法をさだめて奉る故ニ人も
ちとも何ともいひて又五百年を風波なく世中ゆたかなる
事ぞ後世までかくの如くの人出來るハいかがハ
同永禄天正の比禁中公家もかく衰微してかつ人多
歎き秀吉公御世継に致し奉る事なく

くの由そのありと云戦国にて讒心を持をも奉る人をかゝる
まし間朝夕の御つとめもあらずきれ様子もし義も其讒に
ても御馳走不仕して不叶事也秀吉の御馳走ハうつく
すゝと道を知りなりさる故へ禁中の御為日本のための
御馳走ならざれど一旦これ御政治にふたゝりありて節く
公家のごとく御世に要なくしめ候ひ以今天下の
御政道あるり候ハども宮殿の修擁ハいかさまにも公家との
了寛なくして事物過分の時ハ火災なとも出てなり候
候ものハ禁中の霊物をもうしなふべし道ある人の御馳走ある
ハ禁中の御位をもかたくあふぎ奉りていかし一代の禮樂をも絶ぬ
様ちり御神樂ものハ御神樂の類をもつき節會御遊等
みをとれく其類をつき奉りて其事あるなるへし行ハ公家の様

し宮殿諸道具等ハ質素にて礼儀の叶へまでなり
ならバ禁中の正實立てとありのをあるまでをもたて必要
の憂もあるましき也公家中をも衣冠束帯の時ハ礼儀
もやくしく平常ハ知行の分に應してをとりなれ
様に公家の立ちに随ひの領を給まで也ハ公家の公家にて
不礼にも候して長久なるべし大名縁なくて公家の裏まで
もしく織事也内縁よりて奢を生じ礼楽をとも
ほくゆれども其ハ子ハ父方の家督ハ小身なれバ母方の
人の多き方へよりすびに従へり母方ハ野人にて悪
禮をかくし俗行にて婬樂をすゝめてハおのづからも程なく
婬樂をこのみしまする也是そ公家の衰の福にて以降を
移し俗をかへるものハ樂のありてハなし公家の風俗や

されバこそいかほどやさしく成給ひし事自然にすたれて

ハ公家中かくのごとくなれバ帝王ハ名ばかりにてまつりごとをし

奉るより王者はおこりましく國に益有事ハなし

への礼楽をあそばされて俗と共になりなんか其

實たてみなすたれたる（？）俗とならバしう（？）に絶なバ神統

おそらくはましきも見ひとたり秀吉の悪道乃

御池（？）よりわたりわたらせ給んか帝大樹也と

なりまさバ日本の國も又おやうかるべからず神統

絶給ひて神國ともいひがたし戦國の後人道乃

くみたとめ給ハんや人道に礼楽なくバ禽獣に近かる

むかしより合戦やむ時なかるべしたとひ出来ると

治世ありとも道なく人心くらくハ終にハ吉利支丹

りたらバあくまでに天地も共に破れて

なん也天運いまだ竿（？）の會の初なり天道を

至善なり無好人乃二字を有道乃人の一言に

ありたれバこそ思ふゆへなり

集義和書巻第八終

集義和書巻第九

義論之二

一 心友云我等は夜寝られ候はねば心気はれず飲食の
味ひもうすくなり或は風邪にをかされ持病も発
して入ぬ心術のつかれにて候か何とぞねられ候様に仕度候
答云夜寝られざるは疾病のあるを除ても人は思
慮多くして精神を消しらるゝものなり然ば何とぞ思ひは
何をか思ひ何をか慮らん義に随ひ理に応ぜんのみ知者は無事を行
ふと云り方寸の中私なく人の知る所を天を以て行ひて
「一ぬし」ともなく思はぬ事も好みもやむ事なくして
て廻る天を以てあしくとも其事の私の所なれども
時を待つ後のあやまちをとゞめんと是故に思慮多し

天下我にあらざる物なれバ何を以て何をか求めん
私利くるゝなかるものハなし聖人元来問しく我ならず
天下をわすれんと云とも命ハ捨へからざるものハ天下より
甲も重きものハ我身なれバいかにも義理をもつてかくひ
死してハ名を全くせんとこゝろにかけべからず死を志されても
命よりも義を重し　問後悔の心切なる故に精力を
労して云強くるにあらざるにしかれども後悔すてハ先非を
改むべき根なきなりいかにして受用し給ふべきや　云悔ハ過ち
吉にもむくの道なりまさにこれに悔ふるべく
先非の病ぬ本なる根なりとも我ともわざわざ遺失
の今ハ誤りなくなりて気のうるくといふものひ
其悔なるしかるを心をとめずしてすこしも思ひあるべからず
とゞこほれバいかにこれを遏失の根伏断して中すとも其
境あらバ何とぞくるしからん也されバ精神をもつて私の心を知
りて気を養ひし至寶を保つべくの受用なすべき也
何ぞもろこしの心の聖を以て此霊寶を知るべきや義
にあらずして國天下といへども奪ふべからざる所なり
といふ是故に君子ハ覚照ありて思索なし平人の分別
思ひ思ふ人とも好く覚照によつてかの道理にかなふもの也
平生ひ人といへども我私に不善あらハ德に恥べし人ハ
先非を知るべき然れども台私に清く改むべく今よりそれに
するこゝろすなハち何の後悔かあるべき悔ハ非を改むる發端
なり改て後私に立返りて心をえらんべくて非となるとなり
一 或問て云志の主本ハ何とか立給ふべきや　答云仁

義身にあり而して後身てつかへば不義をなくし悪を行
なりのこゝろにあるべき者をしと穢(トケ)ても薄(ウス)くして涅(クリ)にもとも
ても縦(クワ)ひ其心にしたがはんと思ふとも志ある人の言
此霊明天と報うて朽(クチ)ても終ることも心法の受用とすることは
人々我にありながら我捨ることを　何ぞよそより人によれば忘
の實なり　これ故々己ゝあるもの是にて工夫いたして受用しは
べきや　此天地の間にたゞ一人生てあると思ふべし天を師
とし神明を友として見聞に人によらぬの心なくしては
いまだ内固して奪(ウバ)はるゝことを知りてこそ人のいはれ
一心友同して亡命の時ありて徳を好む道を行にまたは伏羲(フクギ)の
時のごとしと彰れぬされども我不は教逸(ハウイツ)なりしも亦は翻留(カウヒキカヘリ)来
如是は威儀(イギ)を慎(ツツシ)むこともたらざる用をもしくは忘気もなし
か

らく持ちたりなやまんこそ任すべきや　答云前之
なんぞちかき身にあればこそやすくもなりてこそ威儀
の怠る事のつとめをするは氣力のたゆるすれば老年
病衰(スイ)の人は口に叶(カナヒ)うし終りしてもつとめは一念獨(ヒトリ)知(チ)の地に有
あり寢(ネ)て起(オキ)るとてもあるはれにみえぬ病者の老
耕り無して氣つかれてなやむと氣力付ては起きて行に獨
知に暗(クラ)くの間断(カンダン)なる人あるべし人の見ぬ間は凡(ツト)に起き夜中
に寢て起きて仕ふべき行ありとも獨知によそにてある人ある
一じちれ他を正し身を修(ヲサム)ることも家を斉(トトノ)へ國を治るに
動かして誠を立ることをえたるは貴賤氣力強(ツヨ)
くての勉(ツトメ)は遺れざるものは我氣力衰(オトロヘ)ての勉も亦不及
になれは誠を立て時(トキ)處(トコロ)位(クラヰ)によつてとりなす伏犧の

謹て守べし

一心友問て云禮は天下の本にして始る人之に飲食に始ると
見へたり答云天尊く地卑きは礼の始なり無言
の教なり男女ありてのちより父子君臣ありてのちも衆人の氣質は濁り
性命の正しきをつくりのなりてのちも
こころざしその其神靈のてらしうとらして失ひやすと
し飲食男女は人の大欲なれば礼なくしては相争ふて
及ぶ故なりさる礼ありて人之固有の天理に本づきて散た
まふ故に飲食は義ありてのち時ありて食し且る
と譲りすべて男女は媒の言をもつて婚姻の禮を修
て後相交り且夫婦となりて之を賓主のごとく別道あり
先王其何によりしの德を明かにして先し絶へ且礼なくて

そのく絶人は人之固有の天真感激鼓舞せられ卻る
ことありて格物ものなり

一学者問て云即物窮其理とは事々物々につきて其事々
物々の道理を窮め知ると云儀か　云志かり其事々
物々の道理と云ものは心得語にも意と志して愚に見
竹へは物は事也事は物の用にして物は事の体なり二
よわしと文倫の物あり文倫の事あり文倫の物は君臣
父子夫婦兄弟朋友なり文倫の事は五典十義なり文
倫の物には即ちに五典十義の理をそなへたり窮て心に得
身につくを格物致知と云知は理なり今の理を窮ると云
は書のうえにて文に即て講明し或は空談に議論せられ
物に即て理を窮る事あらず文をすべて友と云へるをや

又その上友を以て仁を輔なりといへり此仁といふごとく
なりといへる父子の親君臣の義夫婦の別長幼の序朋友の
信におゐても過あるを磨し不足を補ひ其正に近づく者にて
相補ふものなるに今の学者は過をせめあらそひて至情
と云者をあくるは即物窮其理の実をしらざるなり是の
りは天下の事々物々の理を窮博識多聞なりといふと
も何の益かあらん　問天下の物莫不有理唯於理有未窮
故其知有不尽也天下の物を極めつくしとも大海の様子
色々しと云の説あり答云是は文理不分明のことし云天
下の理はまさりのは斉家治国平天下なりこれ世を一
事にしては天の與ふる才知あり君も其質の能する所を察
し役人も其職を命し役ひ臣もまたしるの天を治く治

其なり身を修るやうなる人を貴ぶはかやうに知る
ごとく行篤き人を選て教を掌らしめ給ふ百年むらし
淳和院奨学院の師ありこれより山川地理に能する才ある
は山川池沢をしらしめ給ふに物の生長乃応よき紀
人を農事を掌らしめ給ふ今の郡代のごとし賞
爵をあたふるにもさ人を士師の職に給ふ今の所司代乃
ごとし律呂の理に明かなる人をは楽を掌らしめ給ふ善悪
の道理分明にして直言するを人には諫議大夫とし進て忠を
尽し退て過を補ひ天下政道の損益を知る人には納言
として君言を出し納し陰陽鬼神の理に通し人情時変
に達する人には冢宰として百官を総主らしむ天下の事
多し理は窮かたし右は只大事の二三をあげたり一人して

推めさる人ハいくれ力を合せ謀をあつめて天下の知を用
ひて天下の事を盡さしむ其不知と云ハ不知ニして知と云ハ知て
いるの事を不知ともまさに人の知をもちふるやうにして音事
に達されバ色に満てせんど功成り次耳目手足の
各其用を盡して一心の妙に帰するゆへ天ハ生し地
ハ育ひと日月のめぐりかくれあらはるゝ四時乃かハり行ぞ
かはらし其物とするに在てハたがハ天下の事に相る
て心の感する所身の交る所の名を微へわろき事を
とも正心修身乃緒餘土苴なれバ後世の人は学を
て明辯とハ天下の理を盡していふを天下ろ格るれども
末先後をまぎらハす雑事にあらず

一 学友同院嗣宗との口によく人の過失を論ずることのなきを
よき人なり大舜ハあまねく事をとり善を人
と共にし人の悪をかくして善をあらはす諸くハ悪ハよの流にうつ
さくせ善ハ人よ讃ぬ人の善をゆるし諸へハなからさりしに孟子
もよくりのかひて揚墨をふせく是ハ聖人の徒なりといへり
凡人をあわ悪をかくして善を揚諸ふよ揚墨ハあしく見
取よき不及あるとも凡人をぬき出する人なり何をも
善をみして其悪をかくさうや　云性ハ聖凡一般なれ
とも命ハ分量あり己の分量を知て命のまゝにする事の
なき人の流なり天命ハ天吏の徒なれバ天なく跡しらく
抑て阮嗣宗か人の過失をいはさる依降ところなし其底
必徹明なるよして金ハ煉瀉してましいりすく至精の正気なる
かゝさく悪思乃萌きる所天理に専らにして人欲の妙なりしん

是を聖人といふとも可ならず聖人の聖人たる骨髄は
天地にハたらず天質の分量廣きところのあるハ天吏たるの天
命あり邪正をしろし善悪を明らかにするハ或ハ筆
紙をかり或ハ言論にあらはすことあり小人の好て人の過を
いひ益なくして是非を論じるの凡心にハおなじからず
世ハ世を救ふことあるこハたるらぬものなり孟子の時ハ上に
堯の聖主なく下に舜の神徳なし是天命を知の義也

一儒友問貴老ハ天下に名給ふ人なり道学にといて
てハ儒佛をいれず老によりて貝をさかし所志るる何を老
そ人に身問給ふもの也しかしいかる人に教給ふやとる
るを何そ神道者俗儒歌道者筆道者出家まても招き
よせ給ハ何にもいつて師とし学ひ給ふや道徳の大なに

かつて窮めざる所ありとや譏者たり　云愚
か名ハ虚なり何そ其虚名をいふて物事のうち
に人の師たる法をめす八儒しんや一文も無文の師と人く
愚かなし然れども虚名にて人の師となるなりもろう
し修しかめて師たるにハ損多し無いつまても人の弟
子なりと居して益あり然れて然者言ハ道徳よそふと
も師とる時ハ虚中の心にて然る言ハ詩哥などもそ
いふにれとも弟子する時ハ温恭自虚の真を失ハと愚か
学未熟なる故なり孺子の歌もよくきゝあり況や神
儒佛歌筆の人にありそや愚か人にまされる所の
ある人の人たる人事を知く博さひろく自満して人の
師たることを好ずして人にまなびて義を学ぶる所

のごとし古人の云如くそれ千金の裘は一狐の腋に
あらずとして大廈の材は一丘の木にあらずとして太平の功は一人
の略にあらずと古人云天下を安んずるは天下の諸事往
物の我有ならずといふとも天下の人乃知の我有なる
ゆゑなりとおもひしりて同じく我ならざる人の知を用ひさ
るは古今のならはしことなれば夫耳目口鼻手足乃能
を用ゆる事ぞとおもふとりのつむなり天下これを我に異なるを
のありて其をしるによく賢知とあるを才能を用て治国平
天下となりとは明君良相の徳なり万物は生を我のえんとて我
身にあらずして是となるものは天なり聖人の聖人たるは
下の能事はなくすくなくして大成するは古今其是をもてあ
つむるゆゑしかれば人あまたよくこれをよく同じと

をおさめて人の知を用ればおのづから天下の知を我ものとなりの天下
の知に帥たり己が知を先とするものは人の下となるはまた我辯
なるべし
心友同文はまた此さきおもふ知のみ眉は義簡質なる人こそ聖学に
入給ふなりしと漸々にしも四書又經をそくに深くこそしれは
先読むるにあらるくゆゑなる書をおもへなり辯へなるべし
事をかれ聰明なるを中々にてやかしん　云今は孩に百年の業
を得て教人のまよなるりなる講明をきることに近年
は宋朝明朝の書渡りて明なる時にあれ其ごとく前せんを
して知ることはなれば我にありて唐のごとく其
國の書なりもを文章をもし達着するもの孔孟の後千歳不
傳して宋朝をおもひて世にまことりの穀は種の

春するものなれとも熟せされは荑稗にもしかされはなり
又聖人の道も学も熟せされは鈍学にもおとるへし
ゆへなり聖学の日本にゆるく東さしをかれは時分は鈍
学ののさかんなる事は日中のことし
一 心友問大学の先后の事いつれの所まて行るや　曰正心也
心を正さんと思ハゝ意を誠にせよ誠意の工夫ハ致知格物也
國天下を平治さんと思ハゝ家を齊一家齊て天下平也
家をよく斉へく國もよく治て天下よく其齊家也
本は身なり身の主は心なり一度心正して家齊り國
治り天下平りなり　問大学工夫の實地いつれの所そ
曰誠意なり是ハ傳の功ハ誠意を首として致知格物ハ誠
意の工夫なり何そ別に格物の語あらんや所謂は一字をと
以て分明なる事なり
一 心友問孔子絶四毋意とありさるに誠意と云ハ何ぞや
曰毋意と云ハ聖人のしわかり意ハ不常往来の念なり愚
雑慮とも云聖人にハ物よりかし学をいくそくに意をあらん
とせんは異学の流となるへきや心ハ本空なりさりるに空
を観しさる圖上に圖を接もうることし心本意かしまに
其本来のしくかしんとせんは非なり誠はもろハ意を立
さるの工夫なり誠にする時はそのつから毋意になるなり
意念の不常往来して自欺りのハ心の霊甚至くかりみそ
神明てる故本来ハなりをしてされ其気の霊照不昧の
全体をいてさらしをも雖も空にして明らかなるを失へし
不常往来の念をうらなしひ生る欲をさらまへて善

悪となりて心鏡よくくもりを空のごとくにらくして其
功をなしやうなれば瘧の間日のごとく水のおこるがごとくなり
なりてはまた気質変化の期なくして天下の事物
においては心の明不明を覚て実にこの功を用べし天
下国家も物也天地も物なり天下の事物において我心
のなかにありてわかの不明なりとは善をしり悪の良知わたし
とも善をしるも悪をしらず悪をしらざるは真知にあらず
とは其知良知にあらさるも心をひらくにはまづ窮理の
功によりて精義入神の実地をふまざればならぬなり
其の進とかさぬるは窮理のうへにて精義神に入
られしなり此の如くなりてはそのうへにあらはし知明なる
是は間思雑念なりはしる此一つにはなりて聖人の毋意に同じ

問 如此なれば朱子の説に近し陽明物を以て事とし
まうけ説易簡なりとや 曰く事とも物なり天下の
事物を離れて事なし事を離れて天下なし事
の非礼といふも我心の非礼なり私心非なる
か何ぞ事に非礼あらんや事に非礼と当下に知し
其れ自反慎独といふ事の非礼を絶に格至るを
窮理といふ其実は一なり 問 致知は慎独の工夫にある
とや 曰く慎独の工夫は誠意なり自欺なきときは
慎独をいふにあらずや致知は多く聖人に至るの的なり
工夫は今多く格物にあり格物は下学なり致知は上達なり
道の大意を知る時は天下に窮めざるの理はなきなり
其の上にて逆でも心の鏡をよく見るべし鏡のなきならん

されはきよらかなるものへそすゝきうてとし大なるやうな
まてにも聖学によみそへさのとくに紛年によもし次
精義不入神用とするとしかし大意を見も学よ知の
精義入神にいたり入徳の功あつくしてハ聖学の至善
にあらしと

一心友同一旦豁然貫通の語ハ異学悟道乃習ひあるに
似たり　云々これに見まへハ悟道の見に似たれとも意を以
てむかへて己か受用のところに對應してみまへハさりなから
天下の事物の理を窮めんとおもひけれは俗身のあまんとれいと
まな以て文をまなひ心の通をたる所あらハ見あるましとこ
きすへからす同に道の大意なきやうにハぬそれ成り後天下の
理にゆみて疑ひなし儒佛にまよひて天下の学者ま

てもいくと共に在てもなし聖学によきものハあるまし
されとも大意をみまへん貫通ともいふへきか　同志の人を
貴老ハ程朱をもまなひ給ふましきか　云志の人ハ程
朱剛強仁厚明敏の質ありて此大意をまなひ給へハ則賢
人からの思か質柔弱性薄魯鈍なりしものハ大意を知
るへきも氣質の害をまぬかれすしてなし入徳の功を
勉て日久しからされハそれを離るゝものともいふへし一旦
にしもされハ己を百倍にするのみなり　剛強明敏
の人といふとも大意をまなひのほかにはあるまじく候
同曾點の大意をみるも貴老の大意を得と同しきや
日又高下淺深あり見へたるを相似ても質をもつて大なる
うひあるこそあれ入徳に入の後氣質の類なし

一心友問今の時にあたりて先王の道を用ひば忠質文何れ
をかまづ用ひ給ふべきや　云愚がきくところ本なり賢
君ところ給ひて忠を用ひ給ふべきか　問今は文過たるに
質にかへり度を用ひ給ふ　云今は表よりも内のすたれたるもの
らと質にも亦文の下地なりと忠は誠のたかなり誠を過去
へし奢と飾とは多は偽なりと此をのぞひ除て質にゆくべし
世なへて文わるかるへんか　問賢君どころ給ひて善悪邪正の
わかちをなす給ふべきか　云理屈にて問ては給ふべし
かの人情に應じ時宜に隨て給ふべし先て大道を
こらんと思はば法と先王の道に伏羲氏をかゞみ給ふべく
衣裳なし宮殿なく禮度不節なし其神聖なるなり
麻なるべし

一心友問て云聖賢も又静坐ありや　答て云孰
あり孔子閑居し給ふ時は申々如たり夭々如たり心主とする
時は必を敬にし忠信を主とす意を誠にするを云
人欲の妄は間思雑念無く成ぬ偽なり其意を誠にする時は
忠信主と成て天理流行を空く如たり故に呼吸の息も
分く統なりひとつに出り抑ゆるやうに又溫なり是静坐
のありや心に妄ある時は息喉より入る心誠なる時へ
臍のなかより出る生の術も亦心にあり是静の生
氣には呼吸の息を数えあり内に至を去れば心ち
らと精神内にあつし氣血順流なる初学なくんば

一明友問て云雨しひとつて思案なく此をもつてしろくを
自然に通滑し陰陽合する拘る　答云是より世万の為には

る神の納受し給ハ、色〻事そハなけれども其志まさるハ
善悪によつて多く民の心根に感じて雨降を誘ふなり
あるひハ多くの人をよりあつめ来てもさらにその民の幸
苦労事の費あげてかぞへがたし去ながらその日ぐらしの
民、雨乞ひとりしけれバ三輪の大明神へ日でりに雨乞ひせん
とせしとき女を集めて三十ヶ所の郷の入用ハ金二千両もかゝる
といへる物語あり。何ぞ其年〻の苦労をくりこさるゝの
すべてハ日でりの節雨乞ひせよと人より外の手をもわり
よろしく銭をふり振りあつむる志ハ世にけがれをもつて
楽太夫にらへひて其のいとなみハしぞあれ、何れもくらうにあらし
まづ大きなる手かゝへしもかんなし。晴を祈りて雨を祈ることハ
さぞその所の奉行代官国郡の主の法なりき今ハ百姓なる

むかしよりハ雨を祈ることのミ多く晴を祈る事也
かゝる時ハ長雨して田畠の作物そこなひぬる事もいろ〳〵
ことを祈る事なり。問。明者ありて曰く、ひてりには何ぞあらむ
答。雨乞ひして雨降るべき道理あるものハ音楽によつてなれ
むかし天正の比大に日でりして諸寺諸社のいのりをなし
ても雨ふらざりしに勅定にて楽ハ五行の精神をうごかして
天地をうごかす、年の十二月に配して十二律を有その四時土
用の調あり天地神明に感じたる事じつにさやかなり
盤渉調ハ冬の声にて水の調子なり。海潮の音を吹きて
ハ天地の水気をよび起し三つの声ともにてりはれたる
時にその声をまねびて火気の人のこゝろに生れてみな気
生ずるしるしなりけり。盤渉調の青海波を双調にうつして奏

せよ双調は春の音にして木氣なり木は火の母なり水
のみなれば水火を尅されば木の生め母なれば木は
ふうとして陽を火氣となづけしに雨渡(へ)し太原
野の神前にて樂を奏せしに雨ありけりて大雨
雨ふりて　同志しは神前にあることのほかくせても甚
しくおぼしめし　云ふもしとられど天にをくむる緋なくて
をぬし候又双調の音は青海波(セイガイハ)は以前にようしくすることそれなる
いまそしも有連雨らひに用ひ候はた淮にあまて以ゆゑへ
事なれば平　夜にても雨おほひとは樂を用ゆなり

一 心安らと一僕(ボク)に持せし其をもなるに近ならは文武
士の別名をいはう敢なきにう何そ云ひうしおもそある
や一僕に草履(ザウリ)をもおするよりと手にさに及すりしす繫(ウチヒ)

さだんの武具ばかりは弓矢によりそのところの事に　しらしまふよかそへ
なりてしむるとも直に出仕おもそへうしをと古は大将軍ならびに
人ばかりにあせ候へども家の大将中将も武官なれば弓矢
を身をそれら候へて其上さらし矢的前等の間相なきよ
しの定まりよは射手なる人も山野にいてかひよ射るか
ゆゑこととのかなるかひあり弓矢をもの恥辱にあらしや
その懸(ココロガケ)のうちと申すり古の人は嗜(タシナミ)あるべきことと弓矢とを
よおそ木の袋にそとも見るまてく間を猿矢とて絹ら其ま
そまふくりと見て間にてを皮うるなれば間をもはりうるそと
なりとも矢のうちに能弁はれし武士とかれば弓
馬をもるしは云ふ武士にあしく近とは人そも用をなさ
ずは本意にあしくと　云ふを射とこよりくのことされども

ある武士ハ立よりさ様によむつくしたるにかくしハ誰か嗜候ハん
昔も弁慶なとハ手物なく武勇の誉まてあしかりけれは
ある日弁慶なるをとらへてねかいあしく候ゆへ手持にゆへきと
おなしく武士たるものハ武藝にハ一遍とても行まし也所ハ得給
事をせんにハ今ハ鑓をみさらん武編ゆゑよとれハよしやと思ふ也
されハ理運の事なりされハこそ武士の野人をいふもの
なり右門を給ハりて優々として世をたもつれハ多藝をとも
むかしよりそれにせめて御恩をも報せんとすれハとかく感心の
様にせんとハ申も用さる事なき一ツの武官の有ても不作に
せさる階ハ貴賤の良知ハむすはれたる者ありさるかしの國に
向てむかし強弓人一むかしはかくいうとたとへハしゆへしれとも悪を
へき事としハ女も身をまかせ長袖を身に果しゆへ射る事一人

あそハ承よりも数百人をかくしかへし天下の武士にも
この鑓ハ此いへるハいつも日本の弓矢となりしなれハ太平記
の時分より今に法しありし事や楠正成も射手を褒
美してこそとめし事を見てさり今も志ありん
士ハ名将を慕ふへきもの也
又関東なとの弓とり小者やおのれを心かけて蔵を傍ひさせし者
武士なとハ今時も武士の他にもよけつくして持りしに一僕の
小身者ハ弓立もおとなしくしてさりとも是非右もやむ
とし如何にしてゆるさんや、曰先祖ハ武士のならひ矢と弓を乃
大義とおもふ者の道とす候りしに今の世とかくへつら
くなりはてたる隣ありて手つからも持候ふも何の
為にとてかくなりて人の目に立てあしかん小者一人よりも立

まことはしんか様のまよひも時節位ありてこそ矢をはなつべきの
誠するにあしくいはれんのさいつて手段にも世にもはかられ
さへらりしそ出る事よくもとあしかしかれとも矢を紙
まわれてかくしかるはいやうなるもなかくさしつかち来
る八幡太神宮此のかうかりおりし世と神慮をもつて
武神の命なりける信の誠明かあらしは今の時節ならぬと
をこのかりし時ても目よ多くねとしわりくし世界は我か乃
誠よりするそしは我世界となるかりのなり

一 心友同て云秀吉公無為にして天下をとりやうての手に入
るは手かいかに答て云秀吉公をとらへしめさればくはしから
らさるましくなり濃州宇留馬の城主大澤次郎左衛門尉
と信長公の味方となりして同道ありしに信長公大澤は闕

かは怨をてみむと意しなはしかりしかん此旨の上
急しての給くり秀吉志ありてまうて此給ふをも許容ありし
中村秀吉宿所よ此給ひて大澤によしひより世未成の事
のうちよむけんとしわり我をへ質よ入て急ぎ退れよ
とて大澤よ脇をゆるせられ大澤なる剛なるとて

一 まことをなかりしかはむかしそれより将の人質の
ましく脇指を抜秀吉公のなかりしかして其座を退き
足し後敵味方のあはひをも秀吉とぞへて誰も信
しておりにあらはこそも人と味方よなりしは事かつるか
あへしくして儀かなるる時よ一命をとらる人しきさるかし人
質とすしては如かて行なりしは仁義もよあるへし人
なるかよ天下をとりやうをもとに今めり緒に不行儀を

道に妨け給ひしことも無して道を知らしむる時は天下
太平に妨し情の心も地とうり且ん情の亡けしよ
国のやに行くされは乱るるなるへし玄宗も初め堯舜の
治をもたらさんと思ひ給ひて孝経の序まても書給ひ
けるかされ後は情欲に執し給ひて足れり聖人
も人心惟危との給ひけり

一 堂の着同小野と聖廟と中御まつる聖賢に怨怒の心を
あるよし沉事なるに怨霊とおもひ崇とおもし大乱甚
しき執着あるへきといふ神ともいふとかんや
給ふや　日本まて世の伝われる也菅公の怨霊とる
御崇とも給ひけるよしあるは配所の詩にも去年今
夜侍清涼　秋思詩篇独断腸　恩賜御衣今在此　捧持
毎日拜餘香　此詩を吟し給へは誠に忠なる感恨
こもりて甚人と見奉りし怨怒の心をかりかし然
まさも君子の怨忠臣の怨とまさしく平人の不知
而不慍小弁の詩も君子の怨なり君子の心なるそれは
さもあるへき事ありと古人もいへり菅公の怨も忠臣の
怨なるへし忠臣なりて只ぬありて雷となり崇を
なし給ひしといふことは菅公の霊にあらすと天神の真忠臣
の謀を感し給ひて也さ給ひけるものなり周公の忠をあらは
さんとて大風吹て顛たり　同叡山よりくたりて文学の
師なりし人とその給へるに薬引るうたしく怒て柘
榴を口に含み吐き給ひしかは燃ありて妻戸焼たり其
妻戸後にそてこそるにも給へらまのことくなりては

あるやうに記し置たるなり。去ながら空海と守敏との古事
の勢ならば空海と守敏と威勢をあらそひて守敏天下の龍
神を捕へてふたつの水瓶の内へおしこめ置しゆへ大旱となり
しに空海北天竺無熱池の龍神独り守敏にとられざりしを
請じて雨をふらせしとやらん云伝へたり。文云今又月々に気
化をもって年々七八月の気化の雨をふらす夕立といふて
田畠草木をうるほすなり。夕立とは山沢の気を通じて
雲雨となすなり。されば郡をへだて村をへだてて山神の気の至る
所にふるなり。諺に雨は馬の背をわけてふるといふなり
是によりて遠くゆかずして雨の近きをしるなり。雨をいのる
龍の如くに思へるは理なきことなり。是をもって真言秘術
といふなり。自然に旱して又雨ふるなり

安養の行ゆくとおもてつきまとふ読也世間のとがめ
ようになりたりよみがへるはさは空海のいのりて雨ふる
事も有べし又守敏と空海とあらそひて調伏していふ
あるに讐方の仏神のいか無空海まさりたるやうに
無り空海の書と云ふ書をみるに仏学のきうしんと儒
者のもあり。さればこの我慢邪心を有べからず其上仏神と
いはるる邪我慢のものよりしるそこれて合戦とも
事をなすや空海を飾りかかむるとて大悪人とすること
とて菩公を忠臣に疵を付る
まで其時の事をしるしたり
広く証拠とせんにはあやまりなし
深き川水を左右へわけて通りたるも

あるの法に外といはれて世の信をうるに似たりしさる事なし
然れし幻術とみて水をはこぶ所の出たる様は其の人の
目にみえたる事はありますの水の中にあるとおもひて
の源に水を舟なく車をなくてはこびし所の理にたゞさ
事なりされば空海も正法の奇特なりといへり正法と
は道理なり道理より出たる事は邪法なりかれ
さる水のなかりて嫁かくみてかゝるをおそしとおもへ
かくの車ゆくまでもくるなるべし天のいかり也く雷の
甚しき故菅公の霊なりとて其山の陰を名ていふの
をされたりとおもふべし同天神の御本地として佛經世
にひろめし佛学惜くも法なくて又聖廟と仰ぐこそ也
其時いはゞし聖人のなさしめるは世にしられたりへと

すく只惜く物をとる儀以て学問とせられたる甚人の
業とみるゝ聖君ともとるもの也菅公文海
の道正しくも取りひ給ひしは天下太平の政道
なりされば聖廟といはんは給ひあるべしもとより死
書の上にしも菅公付給ふとも聰明の人なくおもし
さき天神の御本地とはいふせよ給ひ空海の經を
よく読とも法一ある筆多くしむし一大屋を吹立ぬ
今は万大聲を吹哲を吹るりなき理をとうし給はす実なり
とおもへり
一 学友同じ路を屋主さる衣服を粧し美服を着し
身をかざるひても不恥をいふ名をかゝる
よ天下千年以来にても肉に食をなる人も中にも

とはいふも備浪ならずとも今ことなれハしめいて外聞をもと
ありさく男気ともし武士とし傍より今ハ勝手よりて難儀
もある自由成様し備浪あることを見ありそのとも内證そしても
衣服とあとと其外器財へも婦女の物とをそと皆損なりとす
路のあしより用ひよからもを古今風俗のうつりかはれるなり
今備浪あるものハ益多くしあることなきハ損多しとす
衣ゝ有餘なりけれとも備浪あるし此着をこしらへて多く
ハ富有ならぬ成へきもれも人の難義とならひ
下ゝとめて捻して得もし浅ましき事ハ有餘あるに
損なりけれとも備浪なれるかりし世俗よりとして
となれし名付けるくもあやうに仰つ此見捨てる不
情なしなれともえなきことをりあきとハ何ゝ又見まするもんに

備浪ある者ありし此者無殺よりもそのきことあるもあ
るハ人ともしくひて不足ともあしくハ備浪あることもしよ
りて人の代患難ともめくまハ下この困窮をもそくりそハ
百姓の飢寒ともるしもくいそ親類知音のともめをも見
こゝし無理なるおともたい人ハ物をとも人ハ世様を
ともかしく不仁なり是もとのことなして礼義のほとありし
仰し孫ハ備浪あるハりおくをして慈悲人の数よ入ま
人のそこありしこともありることうし此ハたましハ右の備浪
するくそれしめくこ礼儀のつとめいてし得りし其
も退屈して年来のほくそもゆるくなりハ人ことに
備浪出来得り備浪ともれハそしてもまた限こ先よりまねりまして
此論ともして此ることよ益多くしと人ハ無よもひ得ましいて

世中よきわざをしらず、みだりに作るなるべし　射ハ六
この芸よりの勇をそだつるなり。大勇力の人にして、世俗
非道の手を入りよむまゝ一派して独立して仁義をうしなふ
ものあり、然るに我が家の書にも弓術の柿山伏の独立をば見るべし。其
晩年に理をなしけるまでも人をうらんといふべしとなりしき流の称
をけしもせんとも人をうらんといふなとさるゆへ古人のひとつをとりは
のみにあらず定見なき流の如し
一 心ハ同じ老六藝と解して御ハ馬術なりとうけたまはる
何となし然あり、御ハ車御と云う術なり。日本に乗馬
の術にあることとなり。云う礼学の人にも御の車法
ある事を知らざるなし。日本にて六藝といふ時ハ御をバ
乗馬によりてまなり。其ハ易経にも服牛乗馬とあり馬
術ハ始ハ乗馬なり。車ハ後世文備ありける時の制なり。
後にしるしけるも五瀬乱華以来惟知鞍馬為便利雖萬
乗之尊猶執鞭上馬と見ゆる時は今ハ乗馬なり。物盛
衰ありて車御ハ盛なる時の法なり。古人乗車中不内顧
不親指不遠視行則鳴環佩在車則聞和鸞式則視
馬尾自然有箇君子大人氣象といへり。其の盛なる時に
生れたる者は兎角にかは知らず、心を大にするといへ
ども、蛮の野人なる時は蛮人ともいはるべし。伊尹有莘の
野に耕し、傅説は備丈の木を伐る時、何でも此術あらんや
也。物の始は質素なる盛なる時は文備まで、衰へて及
て事略を始とし、衰へて甚事要を専なり。別に物盛なれ
ば、乃ち質に返すべし。始に返しといふ人は

車戦の法後世絶してしかし上古は服牛乗馬とて今
承にて攻むるものなりむかしより今は六藝とて其時は御を
乗るなり日本にはなく義経義貞正成もその馬戦を
専にし上代の車戦のごとし車戦は上にてまふ下も利
あり中野平にて戦ふなり時には城郭ともなり陣屋
造なり下にもるれて騎馬にもとまる日本は馬戦もよ
またしは勝利ありしは下手にてはなかなかしかのあに追
代にありしき後軍にかりて馬軍中にありし義経を
打物の達着つよるは手きてと十二人ともつて前後に
右に立て数万の敵とうけるは多くるれとうてまぎよ
なり義貞正成等と並べて義貞は千六人正成は二十一人
ありしとなり残る兵も相伝の達者なりし

将にも数千の敵をうけおひ中をとおりしかし
其外く一生涯会しやり源平の戦に平家方に利
悪七兵衛景清越中次郎兵衛などいふ二人あり千乃
大勇力の兵二十一騎にて木戸を開きて出しかとも鍬形文
みな馬にのりて達者の名をあらはれ人々を合せ
多くわさりて皆あて多きをされ人事と感して
なり日本の武道にも盛衰あり今は及なかし
一 心友同道理と書して、もるる書なれと世人みなく見ゆり
文字ある人は指に見るにはもとより書を漢にの文
まるとせん唐の書にしるされたる道徳を
至るる人のこころ仮名書に道徳と知らる人なし
作りは心に書にしるか然らは仮名にて書けらる

多書よ字ハ人の思ひの全く作へきに〻名云その道を聲も高く奥ふかくして尽とり思ひよ及ぬ事共思ハ言ひのへかたし言ハ書よ尽しかたし漢字ハ文章にふくめる深理ハ和字の仮名書よハつくしかたし古人もきハむ聖経賢傳ハ昔也の註釈なれ共理を尽へし也と知めして経傳と見時ハ経傳ニ随ひ君臣まて汝ね知り経傳の文乃言はく深きとすそわれハ其理と日々の書をらうそ也と失ヘり文の奥義も口耳の学となりて腐家治國の用となる事をしらす是正心脩身の實学なりわすれたり仮名書の直よ理を発明して人心の海とひを解人情時変よ通して此思を内よ向けしめ旬家治世の用となれなくわれんハ其よりて益なくなりぬし

也とかそ後聖経を見时ハ聖経の文理皆きよ向ても法語を読へし真よ聖人よあひまみゆるごとくの解情あり聖経よわかりかれハ賢傳と云ふも解をさし況や仮名書の奥義と迷ひ至る文と云ふとも也を知心の義也中けくと略して少くとも云ふハ大意を通して和の文義也其此例多し和字の書よハ道理を述へしたる理とふくとらへし故よ三十一字ハ緑葉よつらね旅く也とかくめしさ吾國の風ハ夕也なり皆とひ皆まし此の仮名書も皆也とかくさんよ只ゆかりて道理なるへき物あり漢書とハ深くなるて見和書とハかくあらく見加よ漢文よかつくしの和書あるとも也をかしくかく一ね漢土の人とひを経傳の文理をまてわれひく道をとつる

着多し書中にかくむこゝろも法に益なし又真実を成
て修身にあるをもさるし思へども法に落て法を不知人
多し如此なるひの人乃よそなる書ハ漢文にて書も見ゑ
ぬ也にてひ和やなの書よして合も并じ奴なしと云
とも徳を知くよ文よなきを道を見く法に落ともの不
實学するしへ信してゐる人をなき実学にすれしくへし天下
古今に文字をしる人あまくありしとみ人ため実をとも
得るにあらねりもいは実るも法を不知故に道学の目中
に役するに事是し和書さりとても人生日用の受用
無益あり斉家治国の情に役あしハあるとかくの悪もなる
と深く後経傳を見ん書ゑれ我心の経解くありそしむ居
ともあ誰ならんし

一 心友問柳下恵の和にも清ありや　答云清ありあく天
質にてつと死もしてゐると所和にあり無作法に不行儀の中に
居ても汝を汝とせよ我ハ我とせんめ安くよく我をきくさ
しや足汚よとも縕ようその聖なり清なきもりよ純
なりし　問云しへ伯夷叔齊にも又和ありや　云和あり
ありく天質清よ多のこ無欲を我かしてへ人と争ふこくのなき
ハ和にあらんとや孟子よ悪とみくむの心とおもとといふる所と
あはく見く伯夷を清に過たる人の様に思へり孟子ハ其心
根の清と察しさいめてみへるなり是れ行跡にあるなれ
一 心友問天下国家事たるとしあるをとよ居人無為
にして治むし有さる人し人世これ為事ありハいかれ変と
無為となべき　答云世人馬の人ぬ手才なると無為なる

ゐせらるゝ所に暗に理ありてなれとも是馬を使ふの
ハ人なり人とはいかなるものぞ天なり人の理にそむいて動
き私意をおこしむさるは是無為なり事の多少動静に
かゝハらず心を労し人の時に労せずして閑居すれは
無為にあらず隠居して心は労とうくもなき時に
當て必世間を渡るも無為なり汝皆名利を主と
して私意をおこすものなり馬の主る所を失ふ時は患を
まねくとして不足みる所へ引しむ時はとらる得ぐる人へ
くるしむ是とくせるとは無為なりあらき人を天理の
自然にしたがひて我を労し我を使ふとも同じに私心と
いふなり無為なり君たる人乃時取使りしてかくせ
事とはいふ天下国家治まりても無為なし

治らず

一心を同議論講明甚親切なり道理を分しまれども
ある術躬行に名利乃交りあれは何ぞや
学云此法を同学のあなたとこそ行に及しもとかう
むのむちふ心ろ甚なり此内にむちに時は一云あし
てゞし精微をなけれは此亦有内向の千言万語
の親切なれは講習をするともあり説話のとあるし
て精微に入りとあるは心をなしたる此なり何ぞ名
利をまぬかれんや　同此なくして内にむちふべきや
云あるやうなり学者の心物より内にむかへりと他乃
学のなか行を見て分明なるべし内に向ふは人にも学の時と
学者の心自然に内りむきふ外ふ向ふ人に学の時とはいふ

これは自然よりにむかひて親切の心術、ともに有
むかふまじけれども是意をもつて意を傳ふ言語の及ばぬ
所なりしかり

集義和書巻第十

義論之三

一 心友問て云、後世の人ハ利害にまよひしむる
小子は生れながら聖神の至徳を学ひて異端にたちまよ
死生一貫貧富一致の理をさとりぬ天地萬物とはかひ
なきは事ハ人生の禁何事の先に立るん理に大の候
死はくも又一太虚なり我にかへりて地位し萬物太月せり
心太虚なりましてのなくハこの世に生まれて霊
の民也万物一体の情は人のうまれとなりけるそとつかえ主
るも生もなきことなけくハ非也命ハ数不知也

一 舊友問て云、日本ハ武国なりしかるに仁道と云ハ何ぞや
云、仁國なりしかるに武なり仁者ハ必ず勇有の理あり

かならずしも小快ハ勇國也征虐たる不仁なる禽獣あり
進し勇者ハ必しも仁あらざれの至言にしてあらずや
夫仁ハ人也心の徳なり慈愛惻隠ハ人の情なり無欲
君子ハ人の本也てハ其心万物に一つの中にねさしてふかく無心
なれバ仁ハ万物をとくして一体とするゆゑに無欲なる心動
に公孫くもまた無為なれバ仁者の楽ハ山也とハ仁
者は心静かにして山のごとし無欲なるが故に静也
知者の楽ハ水なりとハ知者の心をたとへて水のごとし
ごとし源ありてそのハ流れとどまらず神化のはてしなき
と云知者ハ常にかなふ不和ハ流水の物にふれて内明
かれて外明なり大知ハ愚なるがごとし泥土のあるに
ふれて濁るといへども終にすめり識のおほひにへだてられ
なりて知者ハまよひなし勇者ハおそれなしと仁者ハうれへず知ハ仁の
至なり勇ハ義の徳なり仁ハ生の精なり此故に仁者ハい
のちながし

一 心友問むかし漢に黄老の道を好て清静にして化行ハれ
たりとききしハ異端とも用ゐるに益あるか　答云陰陽
を和調することハ実に倹節にあり孔子曰以約失之者
まれなりといへり愚をとけて黄老の学者なりとも清静にして
欲をへらし我が身をかへりみ名利をすてなバ皆聖
人の一端なりと老子云学道日損といへり道ハ天理なり学
ハ習て明にするの義なりと天理に志して習て人倫に
明なるの時ハ人欲日々に損す係る所を学ぶ者ハ大事化
して小事なくなる也小事ハ心をみるなり多ハ目に約に

帰し奢ハ目にも倹に帰をまじへみな目撲するハ義也讃し
盡その至ハ家心大屋と成之一物なし是みよ思ふなど
するとを忘れし思ふところ文理なる紙思ふと除く
いふなりと争みな礼儀なるをするなとはしにいかなく
欲いはする二つきさるが為よ於のいハ文理を失く妄念にて
まハさハ礼儀よたのひさ驕吝也となる　同倹約ハ一事いつ
行にハ陰陽を調和する小をつきへや陰陽調和せハ風
雨も民乃絶よ去てうらんの　云倹約ハむかハ無欲なりと上
無欲なるハ事をくみも無くをたのしむ者ハ財をたつや
ひと財をもひらびさまハあひむろとは財をのつる天下に
散ぶて民をたからやせハたのしにせさまハ桐柔をとる
井どにある水の田を耕してく食も五穀乃さ争しる

生して水火乃ごとし人よ不仁乃者ありと云とも飢を持たは
とも盗ひ乃礼也なる時ハ刑政用ゐるにおよばし衣裳をそなへ
天下治まりしも也禮樂乃質也宮に初て学校の政教
弟忠信の教をなすべし倹約ハ義なるまで盡せぬを

一朋友曰吾志ある人文学を好めり常に武士乃やうに剛毅
なるべく文書乃ことを専にし静なる体なき学者ハ志ありしと
奇特なりといへるを　答云剛毅なる人ハ静かなるに乞ひて尤よ絶
事なきものなりとも文書乃ことを専らにせば変ずるハいつわりも
公家の史儒ハ出家ものなり行そへいへば如何なるも武士ハなうしてハその
門のうち真にはせ光らるとも孔子をも書を乃こと事とせば頼ハざ
るべし士大夫なるもし故よ文武共によく練こく射御乃道をも
得給ハず文道をハすてて武藝ハ不得手なるとおもふハなか

ちハ其不好手もきらひも天性の生付なれバ不苦なり
公家なれバ筋なくてハかなハざりけれバ文学者ハ右筆の文を
武家にハ武芸はいらざる奉公もあまたあり其家を撰
ぶべし扨ハ農工商ハなるべきことをそろへてさへ能くすれバ文武を
う孫そして不叶事なるらひの経ハ居なれバ一向に先
きりハ其良知まことにうけまくとかなふべきハ先々其業
にねぐく其つく先なる者とすべしといへども此かくしてハ天性忠
我分ほどの道ハ身を越えてつとむることなりとも我家にハ先々から
なる人にハ其つハ功を此くをわけて士たる身からハ勇力あり
て武芸に達し武士の中にぬきんでれバ士なれバ大納言大
臣にもなることもあるべき事也此心ハきらひなく気をつくし諸士
の上にたてるべきものなり也道をまもり徳をそなへて

こたふとくなし無事にハ此心のなきが人あるな
一心友同敬をまじへず一度何の心も深く尽くすと多し　云
何心とするかハ人心は常也敬といふは戒慎恐懼にいふハ主
意なりと常に心にあまり持するに守らずして敬ハ心の徳也
須臾も離ざるのゝ主意に心を外して異なるを以て君子を
いふ此心外に向て人の見聞する所をつゝしみ内に恥ぢ
さる我離ると云則ち是也君子ハ主意にする所内にあるひて天地
神明を師友とし人の見聞ゆかざる地一念獨知の所にあらひて
戒懼して是我慎獨と云己が心に恥てひとりしる所を慎む
すじハ内外の時より不善をなさず不義をなさんや義にかなふ
進みて好悪の欲なし何ハ天理常に存すれば敬也是を大なるハ
當に只敬ハ一つを外にむかひ内にむかふ故に別なき君子小人の鄙

ぬべからずと也

一 心友問夫仁者己欲立而立人己欲達而達人とは何といふことぞや
云仁者は己たつることを思ひ凡夫の立身と云は己一人の為にして人の害になる
ることをも察せず只己が欲心をとげるのみ也己たつる事を知る人ある
ことを云一ことこの所にて章を得てそれを誤て失へり君子は万
物一体の道に一貫して身を立道を達し故に時に逢て志を得時は
天下ともにし時に不遇して志を得ざる時は獨其身を
よくし給ふとも人を立人を達するの道徳は渾然として備
まりて國天下の困窮せることは君子せん困窮して逢せ
ざればなり　問能近取譬とは如何　曰中庸曰子曰道不遠人人
之為道而遠人不可以為道詩曰伐柯伐柯其則不遠執柯以伐
柯睨而視之猶為遠故君子以人治人改而止忠恕違道不遠施諸己
不願亦勿施於人とあるを能近く譬を取るとも又柯の柄をとるにて
則手に持たる柄を手本にしてとるときは甚近し然るに
人作りて二物あるときは猶遠し忠恕の道は是よりも近き
ことあり人を以て人を治るは二つ人のやうなるをとも心の天理は
天下一貫なり己が好む所の義理は人も好み悪む所の不義
は人も悪む故なり中心を忠と云中は天下の大本也天理
自然の真実を守るを云如心を恕とす天理自然の真実の心の如く
學文用ゆるに違はざるを云故に天理一源の真実を推て人にも及ぼす時
中國本朝といへども違ふことなし後來の習心私心私欲を以て変
と然は兄弟といへども隔て聞く事なりさりとも人には能近く譬を
取て忠恕の道を學文用ゆる時は仁の方是より切なる所はなし

一 心友問攻乎異端斯害也已孔聖の時いまだ道家佛家の

学者なし何をか異端との給へるや　答云六藝をも亦異
端なり藝にあそぶ時ハよし一藝に専よる時ハ害あり一
藝を以是を道のやうにおもひかゝることゝいふらも道徳をおさめく
藝に遊ぶ者ハ君子なりと大道をおろそかにし藝によりて道
をしる者ハ是徒然とおもひて聖賢傳受の心法をすてゝ
を見る道の外にわらもと地なあるは道術者以小道自隔
といへり外にむかひ空とならしてそ心理に念をなしいづれの
藝をも上手になりて八道の一端に合同せらるゝとうけ是ハ
ならぬ小人の藝者にては可なり士君子の事にあらず大に害
にあり文学に達して經傳の上をよく道をしる者も亦
同し夫大道ハ五典(十義)を正しくし心を一にし身を修め五等
の人倫の外にあるをの此佛者ハ五倫を離れ道者ハ五等の紙

此をいつまで道のやうにおもふを異端とし
孔孟以後の儒者と云ふその外に異端多し五等の外に出
るなるべし

一　心友問君子ハ天をしらずといふことなんといへり独るに
は詩ハらみ川魚しといへるハいく　答云天をしらずみ
とくをもとめるその人富貴貧賤悦楽憂患をうくる人
生の順逆みな命なり己によらすといふことなし是をよく其位
に素して外に其外を願はぬを知るか、ゆへに独を慎
むのこゝなる詩ハらみ川魚しと云和光同塵の心をもて
鳥よりもしへ出るがよくしへ人を交あはず禽獣
木石と友なるべからずみなとらへすることく見ゆとも
心をたゞしくすべき可和を失ひ衆人愛敬の徳なり

されは詩を作り哥をよむもしかるへきことなり風雅之
きよく風をなし言葉すなほにして和かに好
ことにはなはた詩哥よりのちは著罪なくまた者戒む
ることなるゆへなるに徳よりもまた高明の独立の地位にのほるとて
ゆへに俗に同しくも清浄明白の心思を座てられけるに世と
ともに進退をともにしましくらしもてむもしまたはたへかたきこと
物さかりなる文字を愛しそのほかはうちへの言語をもとめしをおこなし
色を興よりおこしへおのつから詩を作る哥をよむことなれハ人の
うちに是を感する心慈温和の気をもてたのしむことを親しむこと
すなはち作てなすところにおいてもまた心ハ神明不測也これによりて
変化して自然の妙なり

一 朋友問て云江西の学者感応篇をよみ又誦経の威儀を
勧めることを見る世人是を卿に者よりあくしとなるか
答云陶淵明とともにつかへ細工の志なからひとへにはしをつまてそこあらひそのふ
馬の業習まて皆まなひおわりしに聖賢傳受の心法を師なき
くて中江氏初めてさとりて心を探ねて試みること心法を受
用るなるわかくはこそかへりて取て受用してたもてきたせ
ふくりのこし全くよりしれにかれかし道しかと志たにとく
なすへきところは誦経の威儀なるもの習の過悪をとこなり
ふ記しかるその感応篇あれは実をいさきよく用る事
なる紙捨して一日の過をむすひ善を記したるをあつめ皆細
工初めて専らにあからさまに道にかくて志をとめて道かへ悔へからる事を
人倫によりつく所事あるゆへそれ志ハ殊勝なれとも異端の
流によりなりともその我は不用なる事たゝ三経の初には威儀道とも要

ときハつるとなり聖賢の神を祭祀するも義ありけれバ也

一 問敬鬼神而遠之と云ハ何と云事ぞや　答曰鬼神の徳を知らざれバ敬禮の心厚し身の潔齊心乃絶ずして其ならざれバいふまでもなく、かならず其上神ハ非禮を受ざれバ義禮を待て祭祀すべし又正直の心真實なる時ハ後禱なくしても心に神ありて遠ざくるにあらず鬼神も鬼神と云ふを知る者ハ誠敬の心にて[illegible]つかず遠ざかり[illegible]遠ざかると云て一向に[illegible]人ハ鬼神の名を付て[illegible]徳を不知是故に身の盛服心の潔齊をもせず[illegible]近付ものなり　問其ハ鬼にあらずして祭るハ諂なりと云ハ何といふ事ぞや　云義をすてて[illegible]勧請の宮社多き皆其鬼にあらざるなり真實正直の心より神明の徳をあふぎ奉るすべてハなく欲心偽巧ある者ともを神明の奇怪をいひふらし[illegible]取立て[illegible]まへすべきて福を祈るハ皆諂るなり　問庶人ハ其親ならずバ祭らずと有るは伊勢参宮し其外至尊の神々へ参詣する事いかゞ　答天子ハ天子として祭給ひ[illegible]庶人の天子の[illegible]ありて其感ありと祭るとハ其人なくしてハ成がたし紀にも感徳をもて親しく祭るに或ハ親の為君の為にあがむべく誠の心あるハ禱なくしと云共祭といふ[illegible]謂すべき[illegible]ならん　問神明の罰利生と云事ハ慥成道理ありやなしや　答たしかなる事にて候ハ[illegible]正神の罰利生と邪神の罰利生とハかはりあり神明の徳ハ不測也故に約束なくして[illegible]見ゆるとハいはじ伊勢太神宮も霊神なれバしたしく[illegible]の心にながはゆる利生ありしすれとなきハかくのごとく諸人[illegible]

伝ふるしをむませそ一ゆうくさけなる事をこと物来のやうに曰よ
見ゆるときハ正道又なりけるをおうさきとし正神乃奇特とゐ延
天道乃感應と又かくれとし孔子臣と云爪まく人なし人へめえ
殺されんとし給ひし時大風起て取りかへしたるものたとを
吹たまふしき道かハ驚馬さくよくなんげまし心かくる者まそれ
仰し長時臣たる者とも鋒をく退まつてたゞ天道の助也又陳蔡
国乃間に圍まれ給ひ七月食絶え給ひぬ此時ハ米をあらん
ん人の神乃祈る理とあらさる者ハ此時まても米やなからを
おもふ危しからさる所たる悔ての天道神明の理なりと異端の神
通力ハかやうの時なと米を挽しするとぞ紀とれ同しはたゞ方便説ぞ
まことしなりてを邪神の幻術なれハ正神乃常にはあらん

一 学者ある問て云我国の同志夜なく會を成て静坐し議論と
益を得ると不可適之 答曰君子ハ無欲を以て静なり行住坐臥
共に静坐なれハ何ぞ別に静と云ものをおかさんや心思義理を専
らとする時ハふとと皆義論なり何ぞ別に議論と云ものを作らんや
其上夜なく乃會合ハ其宜ても主の家内の者迄の労もつのき
るゝ也客の家内の者も亦主人の隊を得て不寐不臥ハ蚊虫よく
らハ寒気に心もむすへしれハ十家の者を苦労せしむ乃男
女召人の難儀也陰陽晝夜ハ動息をおやさかるのさまをき
晝ハ當の飲食あり夜ハ不時の飲食あり人の産をやふる
又あれハしん人の喜をやふる時ハふるしむ者数をさつ况やつまよい
民の迷惑と成ハ下男下女等ハ臨時の余ともあきれ
学者たる人と成てハ学者の者ありても恐れ衛氏の徳の五倫
を断まし五等をと始く学まのとかくても居者ハ又まいは害をとすべし八

各別の事也五倫の居く五等くと云ものハ各分職あり晝ハ動て
色ハ体也心ハ天下の教ゆる事久し晩にハ寝て道を尋るハ
古よりハ唯かくし也学につきて惑をまねきまへ心術を求むるの道と
朝飯後日中晩炊の後或ハ夜なりしハ春夏冬ハ初昏まで秋
ハ四ツ時まてとなりしかるましきる毎日毎夜にいふともいふへからす
らハきけるを又ハ見知習ひ是とする事し我近比會ヲっし
けくなく益なる事をきれはゆる所に文才あるものは書に記し
て用ひ文才なき人にハ書簡議論乃集をのこし惑を定め
まへ心法になけくの人の見られ其に折々の會ハ益あるへし

一学者の云先月我友格致の心法を立て其親切也と是なる本
ことを　答云先日愚か心法ハ受用格致に発しかけたらん
今日ハ吾心虚にありいくも萬物不易人の多くに應し我心

時によりて感するる所興なることはちの或ハ至善の語にまよひて
発する時とはちの慎獨の義に発する時もあり皆自然也
今作為しくいたく親切の請はちかんれ記憶の学にはち
はまいふ定ていかんぞれは人を

一学者問て云静坐してもまずとなりしても間思雑慮起
て温和慈愛恭敬惺々乃心存しかたし此妄念去るな
らはいかなく退治成へし　答云温和慈愛恭敬惺々
と亦氣象也発して節にあたる時ハ和といふ也し此学
の名目を云ともなき大本を中と云ものともなく為しても
れく寂然不動にしく感して通さるの也是学の此学を
下手としハ初学の受用すべき様と不知者のなすへき
らくハあらざると其氣象にこめくなき心と也ハ然也に之而

もちゆる也又伏犠氏よりこのかた孔孟にいたりて静坐なといへることをいはさ
す君子ハ事に無事ありて静なる時ある事心無欲なる
ゆへなり是ヲ静也静坐といふハ心の心をもとにして時ありて坐する
ことのある心ありて静坐せるハ自然なるなのかはりに坐禅学様
氣躁念ある者はためにいはるく静坐といへることもありしなり
主意と志しそなへて用るものハ病あるもの者にはせぬとある今で病
を発せることハ凡事わたる間思雑慮を云ことや主意なきありて工
夫なき今の学者の主とすへき云むしろ其主を忘れて真
の主なき氣によりて作せる今の虚を捕理とおもひ退けんとて
嫌ひとこれもしこの捕理にくるしむきを味方として追拂ひ事の事
了間思雑慮にすまさりくのことしたく真の主意あらさる表裏より
人の根本ある事飲ミ食ふ蝿をとふにみれは小人の根間思雑慮
とうしおほその思慮也天理人欲并不善悪俗とそ主とし天理ある
の主意にて小人の根本にて天根から本をよし事ハ間思雑慮何
そ長文にたらんや假令淘溺くまかりかへて人の時の遊ひとを養み
あらしんいふことはゆるきこのけるにハ工夫を用ひよとといへともこは工
退治せんとなをも候ともに淫溢を思ひたとへハ大陽雲多か往
ハ捕理かくまで天ハくるへきことし明徳ハ心乃大陽なるか如し
明かなる時ハ百戒千慎用ひすして天然無心の敬乃存
して暫くもたゆまさるへけれ

一 学者問て云父なる者学術をこのむ婦ハ但もの人の交の云父
の心にかなハぬことなから学問と孝弟をもちいしつきんか
是ハ父にまなむしろく学問をもて根なし何事義不義の道
理をよくわきまへずとはやまさらんと時の宜に

きこえ侍し学友乃會にあるべきなりけれども又一人の友がいつ
は父乃学術をまなびえざるは愚痴ならば性命の父母につかふる大孝
をきくたとひ父命にさからふとも是非もなきは道を学ぶぬ
人と成しより大なる孝はあらじこのしるしとひ父は勘當するとも
此義にて非義なりとなくハいふべし　かゝるさわること人と生
まれて此時節をむなしく過さん事ハあさましき事なりと
此兩義にあらはしへ侍りするにまさ後の義を耳にする人は思ひ煩ひ
ときに何とやらん疑さめかはこゝろすがしからね折くも侍るを
我は婚乃義にあたりひ侍らん大舜の性命の父母につかへし者
もしく父母の深かりし経ハねむごろにいとへハ父母大悪人にて
悪をとれなきを今世の親父母は悪人の名なし長く
かゝる事ハ此友の實を見よ学問のかさもなくして

見るにハ實の人がら年人也其上親父も人情時変の知識あり
先生ハ此知識なし先生ハ学術をもつて親父に勝されとも
思ひ給ふへけれども学術をもつて害あらしハあるまじき
益あるべしおよそ人たる者小人の不作法悪事をせしよりハいかで
益ありとも不似合なる君子の学びハ心と行と二ツなれば心正し
けれども行正しく心和なれば行も和らけき貴友乃心術ハ心と
行と二ツになるべからず学友乃交りハ和順の上にて世間の交り
を和なし友の志をきとしく有とて親類知音にも離
れし同志とのみ晝夜乃會をなせしもつとめ異なる徒黨
と交はりいさかひしかるらん其年中の不作法を見るハ武士乃
家にまれなかりし武藝をしとしめも弓馬合戦乃道の
心がまへもなし先以君子に不忠なりし一門もうしなはん朋友信

わしは文乃嫌ひなる不む掛なるを貴ぶにあらず道理なく親父の如く
道理あるべく勘當ならハ欺きもし不孝なるべし何ぞ心得て
人倫とし何をもつて聖学といへん後乃野郎ハ棄恩入無為真
實報恩者よ似たる名ハ聖学にしく實ハ異学なり異
学ハ人倫を離まして別にたてる法なり人道をむらし
聖人をそしりしてとのかれて各別のことゆへ人道に背て
聖学をする者ハ實を異学に合する事ハ似て非なる
ものなり聖门の罪人なりれや一向に五倫を離まじ五等
をもさる者なれハあるもなき乃役とすなりん五倫に
依く五典十義を学ハ武士によく五等を行ひんにするが
すもやうに崖をもて實総とら文章にてなり會合
議論とやわ武藝で治しん家業にするとなしなかやはへ

学文乃名と去て作法正しくハ親類に音としみが貴ぶ
代し給ん親父と初く学術乃益を見ぬ給ふへし宿もく
又書を見給ふへからんハ誰のこしもる人にもん親類の音文紙
文とみな同学會合の座に成へし其間暇をと問て文
学ハ文をくめて友と會し給て親父とさゆけ給ひ
学友とゆき武士なれハたゞ武藝を学び武藝のるに議論講
催し給へ武士乃本作とまて五倫乃親を離まて年月を
空しくしなて可なるんや他人まで嘲て笑へし文の淺
からぬ慈愛なれハも勘當し給ふべきなし
心長向でいひしゆゑくしそ心術の受用まさてみかに緑と
辞し官をまて靜に成く志をまけまさへ上達の功としきが
しかるへしゑ
答云聖賢乃学いまだ浅くしてを得るし

然さらんとしハ終めハいなおふか身よく学たてともおゝく
仕て学所を試ミ行ふんとしてかよつさミ官禄を去退て
費用まふさふ所ハ何事そや遊民を称よふ今乃学者乃風を
きゝん會合称さけくして議論をゆとき氣方かれおいろ人
しく打寄て晝夜とかくあそよを以て学問の事ハ民主人
なくて然ならハ孫安楽ならんとおもふハ世人て称がひを
とげて一二変せハ心身共ニ異端ニ成者おれハ或ハ壮年或ハ
多病の者ハ事業なくして居なくし或ハ老人或ハ病者多れハ
妻子乃口をつかしてハ居かてし近比江州ニ土民ニ富有ニ
して田地多し志ありおふ民ハ躬から紙憂て名ある地士ニ
若学とりらハ村中を招き其由を披露せり今ニ其ハ
朝夕ニ鋤鍬を取て田畠ニおやとめてを縄俵まで作る

然ていふなかるとし又士り歳くハかくろ賤しきわさをハせさる
とかふとも思ひ居よりろて半日もくらし黙然として打居るも大にく
むしてふけるハ物く成ましきものを士よ成てり勝くたんくと
たのく士ハおしきよの也といつて我ハ今の学者乃便利を好ミ志
成らけく壊田夫乃悔あらんをすけくも年ハつきさ人の用を
なくさ奉公せんよりハ退て氣力ある間ハ文武乃道藝を
達せんなくれりくる又さをおろへき事なりと古九八歳より
三十歳まで道藝ニ乃くをかるろ長ろ風まとかよつさろ備
者ども又学問修行乃事と一きわざおとハ一月ニ身やつれ
まかはし後や人道りおひくなや

一朋友問むしハかとも今ハなにとと何事
云人を万物乃常なりとのもとくまで八よしかさくろへれし

今ハ人ゝ何にゝもかまハぬ事乃ミ好ミ侍るゆへに人ごとに万
物ミなあらたまるもの多しかゝるものハ天下国家乃害となる
されバ此人心ハ霊なるもの故に人心に好むときハ今迄なき
物を生ずるなりむかしハ椿も紅白二色ならではなかり
しに人乃好むによりて今ハいろいろの百花となれり是近き
又五月つゝじも好めバ色々の花出来ぬ人道に徳を好まバ
なバ善人賢者餘多出来なん是後乃かゞミともなりて末世
迄乃まよひなき人の手本なるべし

一朋友同人のまじハるむ者ハ命なき人のまじハるむ者ハ命みじかし是
是ハ何ゆへ　日本紀人にハいのちある故に長命なる者あり
是に反するあく短命なる人あるハ愚人の中に者あり
あく故に短命なる者何ほども是に反して長命なれバ

こゝろみよ心にかなふや又好人ハ神氣霊なる霊なる人
者にも賤しき命みじかき理をあらし霊草名木乃植りぬ
きもあらし悪人を神氣不霊なる不霊なる者ハ無病にも
あり命なき理を一同に名もあき雑木野草ハすそ
生長しやすし質もさく氣なる悪をなせども
悪人乃地位に入ん為にして住者をさへやすく身を亡
やすし悪人の地位に入きらてらんりしを恥さる者ハ大かた
悪行ありても人さらん公儀乃大法をまぬかれがたし乱行乃
まくも一生終るものゝ如此者ハ神罰をかうむりし利根
なる人にハ神罰もあらし肉塵あるものゝ如くきよく
しく鳴ともしやゝ也肉こそ物にたくそて益なき
かあらし吉凶乃應をあかくのごとし

一心友問随分に悟道修行の僧といふもあり仏法をそしりまた儒を
念戻の氣ある輩かくのことくの心学者といふもの儒を
そしれハ不平に色見へ侍りともくしうきは心往ハ
ありとこそ侍り　云何道何学といひて又其者にかく
ぎにはされきのあるハ大道にあらん佛学のことハさて
聖学ハ人道也一人の私事にあらんそしるべき人ハ阿るも
己をそしるなり何そ道に私して不平の氣あらんや己の非
をそしらハ省察すへし道をそしらハ默すへし默して默
せさるハ其心の正にあらん君子ハ己に益なく人に益なけれ
の言ハ発せん
一心友問書をよみさる者も志あらハ善人すてぬへし
承ハ道を年よりも得道ハ今より文学すへきことかなし

残念なる事也　曰怯弱なる人の善信者大聖神に志
ざしはちまよくたまつとせんハ至誠無息の天真にあらん
弱老ミかんの残多しと云も亦あやしむべき也人の人たる道を
知らく神人死生疑ハすれハ大なる悦あるもの也続あしたに
道を聞て夕に死すとも可也とハ是よりわ壊一日も進
ミ悟らんハ幸なり貴賤をもまてに善人の数也信義の位
に至らんとも不息の性存せハ何の恨むる事かあらん
一心友問異端にハ空と云無と云聖学ハたゝ實のこと
答空則實なり形色あるものハ常あり常なれハ物ハ真
の實にあらん形色なきものハ常なるを常あるとするを
實とす異学ハいけさる事をこしめえん聖学ハ無を盡し
たるものなり上天の事ハ聲もなく臭もなし至極也

是故に好人ハ心静にして危き事なく福来つても甚よろこ
ばず禍来ても甚憂ず呼吸の息にてさへ踵に至
生ずる綿々として絶る事なくつゞけるなり也泥想人の云所の槁木死
灰とは云事と害あらし異学の有とする所を真乃有とおもハん
無とは云ふ真の無にはあらざる也のみは義理のことにして
欲なき者ハ生ありしね先を同し欲乃ミ知りて義理をもた
らざる者ハ禽獣なり欲とは云ふ此形の心の生楽なり欲の
義なりとはさらに心くを道とは云ふ琵琶筝を以たとへば
其形ハ有なるも其虚中ハ無なり糸をかけて用をなすも
ハ道なるも天地万物有無不離して道存せり故に有形ハ
是無に帰も無中乃神妙は性命に是に至る
遊ぶと云有無ハ自然の形体也君子ハたゞ無やハいる無為

無色無聲無臭といふに至し

一 心友問、書簡に先王の制し給ふ喪服乃數ハ過る様おさ
ゝえさせ給ふし法也とおもふ心得がたく侍るむかし閔子ハ三
年の喪をつりて孔子に見へ玉ひしに夫子琴をさづけ給
ハバ是をひくに聲をなさずあさつの泣涙ながしてやされ共
ハ哀情はまたつきざる也とて先王の禮ありたゞ止事なれ
[illegible]子夏ハ三年の喪終て孔子に見へ
[illegible]夫子琴を授け給へハ声しく声を發してたのし
[illegible]哀情をつくさざる也先王乃禮ハ[illegible]及
[illegible]退けり[illegible]孔聖を或ハ[illegible]給
ひし過る様[illegible]
愚ハ上古乃[illegible]先王[illegible]天に継く
答曰

極を立ることなく誠を本とし行ふへきをつとめて本とし給ふ
行ふへきを自然にまかせ行ふへきを制作を先王とし給ふ
ところの誠をかえし行ふ事ゆへ誠を本とせすして自然に應し
時にまかせて先王の制作なりまた過る所
也さゆへハ誠を立る迄自然に應して作為なき所なり
先法の行ふしめ也後世の生まれて情うすき者古の人
おさへて三年の喪ハ過きしと思ひせめて法とめて成したる
三年に及ふこそかたけれハさる哀也と思ひてあらためて
中古の事も祀ハ今のあれさまも満さまて世中事
まつ欲ハ情よりて孔子の時すら宰予に三年
の喪をはふりきる者ハすれかならす孔門にても七十二賢の
下ハ多き有るへし三年の喪に朝に祥祭の礼がなく

多く歌ひし者と子路の笑ひまし故孔子宰予を中
を責めたまへり三年の喪久しとの給ひて世中甚すき
ハ人情の至りなる所勢ひ見給ひて餘氣なりと宣
ひ給ふハなる成る所を法としめしむるを引く聖作の
ことわりせよ是偽を教ふる迄何を天に繼く極を立給ひ
忠質をなとし禮は後なる所主意なるへし今の人情
精力すくなく日本王代の服朝の法可なるへきれもとめし
道行ハ立るへし今の俗よりも古へ
事をくその氣質と学力ふかくも道行ふ
まつりの法のことく日本ハ成へきもの日本の水土によるる
の制おなへき　同閔子の三年の喪終ても哀情や
まさると君子なりとおもへ給ひしハ是なり　子夏の下

くはしめくたのしめるとも君子なりとわりしことを子貢のとひとろれしよ孔聖乃とく給ひし八大学の道しを傳事ある上下は深浅の位ハちかふなれとやうはたかへ侍り　云閔子ハ氣質義みして文学の器ならへ事してなし給へる也子夏ハ天質よろしく学力のたら残て　つとめくいたる事云ろ八閔子ハ質あらハ閔子ハ及とあらん子夏ハ質にして子夏ハ及ひろくかくれん世中のへとみるハ聰明の寛人ハ篤行よふ是也篤実の質ハ才知よ不足也顔子閔子ハ二なから兼たる氣質なり其よ聖学おもハ大賢人なり知もくらく行もかましくて文学と不知者を愚不肖と云也此愚不肖も聖賢君の徳化を蒙ハ善人と成者也是を民とはいふ云ひへしたりとひろことあらんすといはすり